

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」 レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた 教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の 役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の 役割・職務 (チーム学校運営への対応を 含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する 配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

実務経験	
関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 70%、レポート 20%、グループワークにおけるピアレビュー10%
学生への メッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	発達と教育と心理学と1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習
	2	発達と教育と心理学と2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習
	3	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習
	4	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習
	5	こどもの発達3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習
	6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習
	7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習
	8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習
	9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習
	10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習
	11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
	12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
	13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
	14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習
	15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習

実務経験	
関連科目	教職課程におけるすべての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト 30%, 期末試験 70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 7号館3階 (吉田研究室)

備考	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業内で, moodle を使用することがあります。利用できるようにしておいてください。</li><li>・期末試験は希望者に返却します。</li><li>・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</li></ul>
----	---

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodology of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>特別活動の指導法については、学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。</p> <p>子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。</p> <p>「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうし関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流や意見交換をする。</p> <p>総合的な学習の時間の指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。</p> <p>公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。</p>
到達目標	<p>教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。</p> <p>総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。</p> <p>主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。</p>
授業方法と留意点	<p>講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。</p>
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって (ソロワークと意見交換)	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
3	学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って (ソロワークと意見交換)	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
4	学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出 (ソロワークと意見交換)	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
5	生徒会活動・児童会活動、学級行事 (ソロワークと意見交換)	生徒会 (児童会) 活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
6	体験活動の意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」 (ソロワークと意見交換、グループワークの班分け、顔合わせ)	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
7	特別活動の歴史・領域・方法ワーク⑥はじめ (1) (グループ討議・発表)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
8	特別活動と学級経営ワーク⑦不登校 (グループ討議・発表)	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
9	特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力 (即興劇・交流)	生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨外国にルーツのある子ども (グループ討議・発表)	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
11	特別活動と総合的な学習の時間ワーク⑩進路指導・キャリア教育 (即興劇・交流)	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
12	総合的な学習の時間の目標・内容・方法ワーク⑪インクルーシブ教育 (グループ討議・発表)	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
13	総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫ジェンダー・LGBT	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。

	(即興劇・発表)		
	14	総合的な学習の時間の指導計画と評価ワーク⑬いじめ(2)〈グループ討議・発表〉	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価
	15	補足とまとめ 補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。	特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、国旗・国歌の取扱い 総合的な学習の時間の体制づくり
			総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。
			特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。
実務経験			
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省
	2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」		
Teamsコード	i92crs8		
Moodleコース名 および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	定期試験(50%)、中間レポート(30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況(20%)を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自己史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況の評価する。		
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。		
担当者の 研究室等	7号館3F林研究室		
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。		

科目名	農学概論	科目名 (英文)	Introduction to Agriculture
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久保 康之, 石川 幸男, 井上 亮, 奥本 裕, 小野 雅之, 小保方 潤一, 川崎 通夫, 喜多 大三, 北川 太一, 黒川 通典, 田中 樹, 寺林 敏, 豊原 治彦, 吉井 英文, 和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAB1001a0		

授業概要・目的	自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の衣食住を支えてきた「農学」は、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。「農学」には持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、課題を見出し対応するミッションがある。「農学」は生命を支える食料の科学であり、生命科学とも位置付けられる。さらには、「農学」は生産、加工、流通の6次産業に栄養を加えた24次産業的視点で捉えることができる。農と食をとりまく環境は大きく変化する。「農学」における栄養科学・健康科学の重要性も認識されている。本講義はこうした問題意識からテーマを設定し、オムニバス形式の講義により、受講者が「農学」とは何かを理解するとともに、「農学」のミッションに対応する「使命感」、「農学」の視点がもたらす「俯瞰力」、「実践力」に関心をもち、主体的に課題を意識することができることを目的とする。
到達目標	① 「農学」が関わる領域について、関心をもつことができる。 ② 「農学」が関わる領域の課題を理解し、主体的に捉えることができる。 ③ 「農学」が関わる領域を学び、専門分野で何を学ぶかという動機や問題意識をもつことができる。
授業方法と留意点	授業方法は、遠隔授業にて講義を行い、パワーポイントを適宜使用する。また、パワーポイント資料を配布する。
科目学習の効果 (資格)	摂南大学農学部の学びの基本となり、「農学」の全体像を理解するための基礎となる科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	農学を大学で学ぶとは	「農学」は、自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、私たちは何を学び、何をすべきか、「農学」の世界観を俯瞰し、学修する。(担当: 久保康之)	事前: シラバスの理解 事後: レポートの提出
2	農学と社会	「農学」は、安全な食料生産と食料の安定供給、自然環境の保全、食を取り巻く多様化・複雑化する社会への対応、新しい作物生産の場とその生産技術の開発など、社会からの求めに応え、解決する使命を担っている。「農学」が社会とのかかわりの中で、いかなる研究が社会に貢献してきたか、と同時に「農学」の発展と可能性について学修する。(担当: 寺林 敏)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
3	農業生産技術の進歩	農業生産技術の進歩は、人口増加、自然環境変動、および、社会変化に伴う農業生産課題を解決していく上で重要な要素である。フィールド栽培、施設園芸、植物工場、および、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)を活用したスマート農業などに関する農業生産技術の進展について学修する。(担当: 川崎 通夫)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
4	国際農業と開発援助	世界の農業の多様性を踏まえ、発展途上国における農業開発と、それに対する援助のあり方を学修する。(担当: 田中 樹)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
5	農業とケミカルエコロジー	すべての生物は、同種または他種の他個体と相互作用を及ぼしあいながら生きており、この相互作用の仲介役として化学物質が大きな働きをしている。植物-昆虫、昆虫-昆虫間の相互作用における化学物質の働きについて、その害虫管理への応用を含めて概説する。(担当: 石川 幸男)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
6	作物改良のための情報科学	現代の農業は近代育種が改良してきた品種を基盤に成立している。近年のゲノム解読技術と画像解析技術の急速な発展は、育種におけるDNA情報解析と高速フェノタイピングの利用を強く後押ししている。育種の現場で利用が進められているゲノム情報と圃場データ処理を利用する情報科学について概説する。(担当: 奥本 裕)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
7	ゲノムと農学・生命科学	生物の設計図を読みみたい、というのは生物学者の長年の夢だったが、ゲノムの解読技術の飛躍的な発展によって、それは現実のものとなりつつある。ゲノム科学の急速な発展が、農学・生命科学や私たちの生活にどのような影響を与えつつあるのかを概説する。(担当: 小保方 潤一)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
8	動物生命科学の新展開	動物を対象とした研究は、農学において	事前: 事前学習課題の学習	

			は産業動物の生産性向上のため、食品、医療においてはヒトの健康維持・増進、疾病予防・治療のために行われる。これらの動物を対象とした研究には遵守すべきルールや法令が存在する。これら動物を対象とした研究に関する現状を学修する。(担当：井上 亮)	事後：レポートの提出
	9	地球環境と海洋科学	水産業は一次産業の中でも特に天然依存性が高いことから、資源維持のために健全な海洋環境の保全が必須である。最新の増養殖技術の活用も含め、地球環境の保全と海洋科学の進展について学修する。(担当：豊原 治彦)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	10	食品科学と農業	農林漁業者（1次産業）が生産する農水産物の元々持っている価値をさらに高め農林水産業を活性化させるためには、食品加工（2次産業）は必須の技術である。最新の食品加工にかかわる食品科学技術の進展について学修する。(担当：吉井 英文)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	11	食文化と多様性	日本の食文化は大きな変革期にきており、食生活の大部分を外食産業に依存する家庭が急増している。本来、日本の伝統的食文化である「お茶」の歴史、伝統および特質について学修する。(担当：喜多 大三)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	12	微生物と食品	東洋、西洋を問わず、食品製造に微生物を利用することは長く行われてきた。農産物の2次加工としての微生物利用について概説する。(担当：和田 大)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	13	食栄養科学と健康	現代の栄養事情は欠乏と過剰の二極化といわれている。社会の仕組みが複雑になっている今、社会のあらゆる側面を視野に入れながら、人間栄養学の観点から健康問題を考える。(担当：黒川 通典)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	14	食品産業の役割とこれからの方向	消費者への食料供給において重要な役割を担う食品産業、特に食品流通業を取り上げ、その役割とこれからの展開方向を学修する。(担当：小野 雅之)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	15	これからの食と農を考える	今日の食と農の状況を踏まえながら、これからの食（消費者、都市）と農（生産者、農山漁村）をつなぐ共生のあり方とその方向を考える。(担当：北川 太一)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義内容に関する資料を配布		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農学が世界を救う！ 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦	生源寺眞一・太田實行・安田弘法 編著	岩波ジュニア新書
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	事前課題（30%）、授業中の課題（40%）、事後課題（30%）で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	植物病理学研究室（久保）、応用昆虫学研究室（石川）、動物機能科学研究室（井上）、植物遺伝育種科学研究室（奥本）、食料・農産物市場研究室（小野）、ゲノム生物学研究室（小保方）、作物科学研究室（川崎）、栄養薬理学研究室（喜多）、食農共生研究室（北川）、公衆栄養学研究室（黒川）、環境農学研究室（田中）、園芸科学研究室（寺林）、海洋生物学研究室（豊原）、食品加工学研究室（吉井）、応用微生物学研究室（和田）			
備考				



科目名	農学基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar in Agriculture
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	寺林 敏, 川崎 通夫, 北村 祐人, 佐野 修司, 高木 大輔, 山川 武夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAB1002a0		

授業概要・目的	福井県と三重県にある農業体験施設を利用し、2日間で演習を行う。主に、我が国のイネ生産と消費の現状、水田の構造、稲作を成立させる農業技術並びに自然環境要因、水田の多面的価値、稲作文化等について講義する。実習内容として、春期の田植えと秋期の稲刈りを行う。日本の主食であるコメの栽培を学び、イネ栽培を体験することで、水田の構造、日本で水田稲作が成立する要因、稲という植物の生育特性を深く理解し、我が国における今後の稲作の在り方について学ぶことを目的とする。
到達目標	① 日本の地形・気象条件と稲作との関係を説明できる。 ② 稲作における種々作業の必要性、意義、効果を理解し、説明できる。 ③ イネという作物の生理・生態的、形態的特性を説明できる。 ④ 農業生産に及ぼす気象、土壌、病害虫、雑草などの環境要因の影響について知り、説明できる。
授業方法と留意点	5回の講義と枚方キャンパスの農学部附属農場での実習を行う。講義は遠隔講義とする。実習は模擬水田（コンテナ利用）を使い、苗の移植、生育観察そして収穫の3回とする。9月以降は野菜栽培の実習を2回行う。実習は3密を可能な限り回避するよう、1回の実習時間における学生数の半減、少人数グループ編成でおこなう。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	春合宿	講義（移動中）日本のコメ生産および消費状況について	事前：講義及び実習内容の予習
3	春合宿	講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容	事前：講義及び実習内容の予習
4	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習
5	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習
6	春合宿	討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」（年ごとに変更）	事後：レポートの提出
7	春合宿	実習 野菜園の管理	事前：講義及び実習内容の予習
8	春合宿	見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる	事後：レポートの提出
9	秋合宿	講義（移動中）コメの稈性と糯性について	事前：講義及び実習内容の予習
10	秋合宿	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習
11	秋合宿	実習 稲刈り はさ掛け	事前：講義及び実習内容の予習
12	秋合宿	討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」（年ごとに変更）	事後：レポートの提出
13	秋合宿	実習 秋野菜の管理	事前：講義及び実習内容の予習
14	秋合宿	実習 果樹園の管理	事前：講義及び実習内容の予習
15	まとめ	水田の多面的機能と価値について	事後：レポートの提出

実務経験	
関連科目	土壌学や植物栄養学の学習につながる内容を含んでいる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				
3				

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート (100%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	実習を通して、作物を栽培するための準備、管理方法、収穫がどのように行われているかを体感してください。また、作物栽培の楽しさと大変さを体験してください。
担当者の研究室等備考	園芸科学研究室 (寺林、北村)、作物科学研究室 (川崎)、生産生態基盤学研究室 (山川、佐野)

科目名	化学	科目名 (英文)	Fundamentals of Chemistry
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	芳本 玲
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB1008a0		

授業概要・目的	化学的な知識は農学領域における基礎・専門科目を理解する上で欠かせない。本講義では、化学の基礎知識を確かなものとするとともに、大学における専門科目の理解に不可欠な化学の知識を修得することを目的とする。「化学」では、物質の成り立ちから、理論化学、無機化学、有機化学に関する基本事項を修得し、専門課程・卒業論文研究における化学的な課題に対処する能力を身につける。また、同時期開講の「化学演習」において、「化学」にて講義した基本事項について、問題演習を通じて理解する。
到達目標	① 教科書に記載された無機化合物の構造式を書くことができる。 ② 元素の電子配置が説明できる。 ③ 化学結合が説明できる。 ④ 水溶液の濃度、pHなどの計算ができる。
授業方法と留意点	パワーポイント、動画を主に講義を行う。また、各講義前に、前回講義した内容に関する小テストを実施する。事前学習教材として問題集を使う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	原子の構造と性質	原子、同位体、原子量、放射性同位体、水素原子モデル、電子配置、周期表、周期表と元素の性質の周期性	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
2	元素の性質と生命	生体を構成する主要11元素、微量必須元素	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出	
3	化学結合の種類と無機化合物	イオン結合、共有結合、無機化合物の化学式	事前：事前学習課題の学習	
4	無機化合物	典型元素の性質、遷移元素の性質、無機化合物の種類と性質、無機化合物の化学反応	事後：次回小テストのための学習	
5	水と水溶液の性質	物質の三態と状態変化、水の性質、水溶液、溶解度、浸透圧、コロイド	事前：事前学習課題の学習	
6	水溶液の濃度	モル、モル濃度、規定度、医学で用いられる濃度、パーセント濃度	事後：ミニレポートの提出	
7	酸と塩基・酸化と還元	酸と塩基の定義、酸化還元反応	事前：事前学習課題の学習	
8	反応速度と化学平衡	反応速度、活性化エネルギー、化学平衡	事後：次回小テストのための学習	
9	水溶液の酸性度	水のイオン積、酸塩基の水溶液のpH	事前：事前学習課題の学習	
10	緩衝液の性質	緩衝液の性質、pH変化、酸・塩基の解離定数とpHの関係	事後：次回小テストのための学習	
11	有機化合物の特徴と性質	有機化合物の性質と特徴、脂肪酸炭化水素	事前：事前学習課題の学習	
12	脂肪酸炭化水素化合物の性質と特徴	生体内の化学反応に極めて重要な役割を果たす炭素含有脂肪酸有機化合物(アルコール、エーテル、エステル、カルボン酸、アルデヒド、ケトンなど)の性質と関連する化学反応を理解する	事後：ミニレポートの提出	
13	芳香族有機化合物と有機化学反応	芳香族有機化合物の性質と特徴、芳香族有機化合物の合成と化学反応、芳香族、脂肪酸有機化合物に特徴的な化学反応	事前：小テストのための学習	
14	合成高分子	合成高分子の種類と用途。身の回りの合成高分子とその構造、合成法と性質	事後：ミニレポートの提出	
15	天然高分子	天然高分子の特徴と性質、その構造。核酸、タンパク質、糖類と生命化学反応	事前：小テストのための学習	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (20%、15回目は講義の最後に実施)、事後課題 (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生への	

メッセージ	
担当者の 研究室等	8号館3階 動物機能科学研究室
備考	

科目名	化学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Chemistry
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	芳本 玲
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB1009a0		

授業概要・目的	化学的な知識は農学領域における基礎・専門科目を理解する上で欠かせない。本演習では、化学の基礎知識を確実なものとするとともに、大学における専門科目の理解に不可欠な化学の知識を修得することを目的とする。「化学演習」では、同時期開講する「化学」にて講義した基本事項について、問題演習を通じて完全に理解し、専門課程・卒業論文研究における化学的な課題に対処する能力を身につける。																																																																		
到達目標	① 教科書に記載された無機化合物の構造式を書くことができる。 ② 元素の電子配置に関連する問題を解くことができる。 ③ 化学結合の性質について理解し、関連する問題を解くことができる。 ④ 水溶液の濃度、pHなどの計算ができて関連する問題を解くことができる。																																																																		
授業方法と留意点	パワーポイント、動画を主に講義を行う。また、各講義前に、前回講義した内容に関する小テストを実施する。事前学習教材として問題集を使う。主として学生は問題集の演習問題を解答し、その後問題ごとに解説を行う。回ごとの演習内容は、基本的に「化学」で講義する内容に関連するものとする。学生の主体的で深い学びのために、課題解決型学修 (Problem-based learning)を行う。また、各講義前に、前回講義した内容に関する小テストを実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>原子の構造と性質</td> <td>原子、同位体、原子量、放射性同位体、水素原子モデル、電子配置、周期表、周期表と元素の性質の周期性</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>元素の性質と医療</td> <td>生体を構成する主要11元素、微量必須元素</td> <td>事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>化学結合の種類と無機化合物</td> <td>イオン結合、共有結合、無機化合物の化学式</td> <td>事前：事前学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>無機化合物</td> <td>典型元素の性質、遷移元素の性質、無機化合物の種類と性質、無機化合物の化学反応</td> <td>事後：次回小テストのための学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>水と水溶液の性質</td> <td>物質の三態と状態変化、水の性質、水溶液、溶解度、浸透圧、コロイド</td> <td>事前：事前学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>水溶液の濃度</td> <td>モル、モル濃度、規定度、医学で用いられる濃度、パーセント濃度</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>酸と塩基・酸化と還元</td> <td>酸と塩基の定義、酸化還元反応</td> <td>事前：事前学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>反応速度と化学平衡</td> <td>反応速度、活性化エネルギー、化学平衡</td> <td>事後：次回小テストのための学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>水溶液の酸性度</td> <td>水のイオン積、酸塩基の水溶液のpH</td> <td>事前：事前学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>緩衝液の性質</td> <td>緩衝液の性質、pH変化、酸・塩基の解離定数とpHの関係</td> <td>事後：次回小テストのための学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>有機化合物の特徴と性質</td> <td>有機化合物の性質と特徴、脂肪族炭化水素</td> <td>事前：事前学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>脂肪酸酸化化合物の性質と特徴</td> <td>生体内の化学反応に極めて重要な役割を果たす酸素含有脂肪族有機化合物(アルコール、エーテル、エステル、カルボン酸、アルデヒド、ケトンなど)の性質と関連する化学反応を理解する</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>芳香族有機化合物と有機化学反応</td> <td>芳香族有機化合物の性質と特徴。芳香族有機化合物の合成と化学反応、芳香族、脂肪族有機化合物に特徴的な化学反応</td> <td>事前：小テストのための学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>合成高分子</td> <td>合成高分子の種類と用途。身の回りの合成高分子とその構造、合成法と性質</td> <td>事後：ミニレポートの提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>天然高分子</td> <td>天然高分子の特徴と性質、その構造。核酸、タンパク質、糖類と生命化学反応</td> <td>事前：小テストのための学習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	原子の構造と性質	原子、同位体、原子量、放射性同位体、水素原子モデル、電子配置、周期表、周期表と元素の性質の周期性	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出	2	元素の性質と医療	生体を構成する主要11元素、微量必須元素	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出	3	化学結合の種類と無機化合物	イオン結合、共有結合、無機化合物の化学式	事前：事前学習課題の学習	4	無機化合物	典型元素の性質、遷移元素の性質、無機化合物の種類と性質、無機化合物の化学反応	事後：次回小テストのための学習	5	水と水溶液の性質	物質の三態と状態変化、水の性質、水溶液、溶解度、浸透圧、コロイド	事前：事前学習課題の学習	6	水溶液の濃度	モル、モル濃度、規定度、医学で用いられる濃度、パーセント濃度	事後：ミニレポートの提出	7	酸と塩基・酸化と還元	酸と塩基の定義、酸化還元反応	事前：事前学習課題の学習	8	反応速度と化学平衡	反応速度、活性化エネルギー、化学平衡	事後：次回小テストのための学習	9	水溶液の酸性度	水のイオン積、酸塩基の水溶液のpH	事前：事前学習課題の学習	10	緩衝液の性質	緩衝液の性質、pH変化、酸・塩基の解離定数とpHの関係	事後：次回小テストのための学習	11	有機化合物の特徴と性質	有機化合物の性質と特徴、脂肪族炭化水素	事前：事前学習課題の学習	12	脂肪酸酸化化合物の性質と特徴	生体内の化学反応に極めて重要な役割を果たす酸素含有脂肪族有機化合物(アルコール、エーテル、エステル、カルボン酸、アルデヒド、ケトンなど)の性質と関連する化学反応を理解する	事後：ミニレポートの提出	13	芳香族有機化合物と有機化学反応	芳香族有機化合物の性質と特徴。芳香族有機化合物の合成と化学反応、芳香族、脂肪族有機化合物に特徴的な化学反応	事前：小テストのための学習	14	合成高分子	合成高分子の種類と用途。身の回りの合成高分子とその構造、合成法と性質	事後：ミニレポートの提出	15	天然高分子	天然高分子の特徴と性質、その構造。核酸、タンパク質、糖類と生命化学反応	事前：小テストのための学習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	原子の構造と性質	原子、同位体、原子量、放射性同位体、水素原子モデル、電子配置、周期表、周期表と元素の性質の周期性	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出																																																																
2	元素の性質と医療	生体を構成する主要11元素、微量必須元素	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出																																																																
3	化学結合の種類と無機化合物	イオン結合、共有結合、無機化合物の化学式	事前：事前学習課題の学習																																																																
4	無機化合物	典型元素の性質、遷移元素の性質、無機化合物の種類と性質、無機化合物の化学反応	事後：次回小テストのための学習																																																																
5	水と水溶液の性質	物質の三態と状態変化、水の性質、水溶液、溶解度、浸透圧、コロイド	事前：事前学習課題の学習																																																																
6	水溶液の濃度	モル、モル濃度、規定度、医学で用いられる濃度、パーセント濃度	事後：ミニレポートの提出																																																																
7	酸と塩基・酸化と還元	酸と塩基の定義、酸化還元反応	事前：事前学習課題の学習																																																																
8	反応速度と化学平衡	反応速度、活性化エネルギー、化学平衡	事後：次回小テストのための学習																																																																
9	水溶液の酸性度	水のイオン積、酸塩基の水溶液のpH	事前：事前学習課題の学習																																																																
10	緩衝液の性質	緩衝液の性質、pH変化、酸・塩基の解離定数とpHの関係	事後：次回小テストのための学習																																																																
11	有機化合物の特徴と性質	有機化合物の性質と特徴、脂肪族炭化水素	事前：事前学習課題の学習																																																																
12	脂肪酸酸化化合物の性質と特徴	生体内の化学反応に極めて重要な役割を果たす酸素含有脂肪族有機化合物(アルコール、エーテル、エステル、カルボン酸、アルデヒド、ケトンなど)の性質と関連する化学反応を理解する	事後：ミニレポートの提出																																																																
13	芳香族有機化合物と有機化学反応	芳香族有機化合物の性質と特徴。芳香族有機化合物の合成と化学反応、芳香族、脂肪族有機化合物に特徴的な化学反応	事前：小テストのための学習																																																																
14	合成高分子	合成高分子の種類と用途。身の回りの合成高分子とその構造、合成法と性質	事後：ミニレポートの提出																																																																
15	天然高分子	天然高分子の特徴と性質、その構造。核酸、タンパク質、糖類と生命化学反応	事前：小テストのための学習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (20%、15回目は講義の最後に実施)、事後課題 (10%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		

学生へのメッセージ	化学は広範な内容を含みます。そして、化学の知識を定着させるためには、問題演習が不可欠です。この講義では、「化学」において解説した事柄について、関連の問題を解き、解法を説明することにより、各単元の確実な習得を目指します。
担当者の研究室等	8号館3階 動物機能科学研究室
備考	

科目名	生物学	科目名 (英文)	Fundamentals of Biology
学部	農学部	学科	応用生物学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 充啓
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB1010a0		

授業概要・目的	実験科学である生物学は、多種多様な観察、実験結果によって裏付けられた知識の体系であり、分子といったミクロなレベルから、生態環境といったマクロなレベルまで、生物が関わる極めて幅広い現象を取り扱う。農学はその知識を有機的に活用する学問であり、学ぶ上で多様な生物学の基礎知識を有することが求められる。本講義ではそれらの基礎について概説し、専門課程で必須となる生物学の基礎知識と考え方が身につけられるようにする。
到達目標	① 生物の構成単位である細胞の組成、構造、機能、分裂について説明ができる。 ② 生命活動である代謝反応、エネルギー合成について基礎的な知識を持ち、それらについて概説できる。 ③ 生命の設計図であるゲノム、遺伝子について説明ができる、遺伝の原理を理解する。 ④ 動物の器官・組織、免疫、発生と植物組織について基礎的な知識を修得する。 ⑤ 進化、生態系の考え方を理解する。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書による講義を行い、必要に応じてDVD等によるビデオ学習を行う。これらは状況によってはICTツールによる遠隔授業の形で行う。また講義内容に関連する教科書の問題をミニレポート課題とする。同様に次回行う講義内容に関連する問題を事前学習課題とする。各講義前に、前回講義した内容とミニレポートに関する小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	二年次以降、農学部の専門科目の授業を理解する上で必要な生物学の基礎知識・考え方を理解・習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	生体分子	生物を構成する水、有機分子、高分子の特性	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
	2	細胞	細胞の構造とオルガネラ、原核細胞、真核細胞	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	3	細胞分裂	細胞膜の構造と特性、体細胞分裂	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	4	酵素	酵素と代謝反応	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	5	解糖系・呼吸	解糖系、酸化的リン酸化反応、クレブス回路	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	6	光合成	光合成明反応、カルビンサイクル	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	7	遺伝	メンデル遺伝、遺伝子	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	8	DNA	DNA、半保存的複製	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	9	遺伝子発現	セントラルドグマ、転写、翻訳	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	10	染色体	染色体、有性生殖、減数分裂	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	11	動物	動物の器官・組織 (呼吸、消化、排泄)	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	12	免疫	自然免疫、抗原抗体反応	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	13	発生	配偶子形成、受精、発生	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	14	植物	植物組織の基本構造、蒸散、転流	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出
	15	生態・進化	生態系・エネルギー循環、適応進化	事前：事前学習課題の学習 事後：ミニレポートの提出

実務経験	
関連科目	一年次・後期以降の農学部のすべての専門科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	対面授業
Teams コード	4ox19zu
Moodle コース名 および登録キー	生物学 seibutsu
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (15%)、事後課題 (15%)、定期試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。定期試験の実施が難しい場合は、別途レポート課題を出す。
学生へのメッセージ	生物学の基礎について解説します。講義の内容は多岐に渡りますが、各講義のテーマにつき、鍵となる考え方・コンセプトを説明するので、それらを聞き漏らさず、理解するように努めてください。重要なのは、イメージを持って理解することです。わからない場合は、放置せず、担当教員

	に臆さず質問するようにしてください。
担当者の 研究室等	8号館3階 教員室302、ゲノム生物学研究室
備考	小テストについては次回の授業で解答を行う。ミニレポートについては、全体的によく間違いが見られた箇所について、授業中に解説する。

科目名	生物学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Biology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 充啓
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB1011a0		

授業概要・目的	「生物学」の講義では、生物学の基礎知識とその根底にある考え方を学ぶが、実学である農学ではそれら基礎知識や考え方を応用する力も重要となる。そこで本演習では、「生物学」の講義で学んだ基礎知識、概念を使い、組み合わせて解く演習問題に取り組み、応用能力、問題解決能力を養う。また同時に生物学の基礎に関する様々な問いかけに触れることで、背景となる周辺知識を学び、生物学の根幹となる考え方がどのように生まれてきたかを、追体験して、理解を深めることを目的とする。
到達目標	① 生物学の基礎知識を組み合わせて、演習で扱う応用問題に解答することができる。 ② 生物学の応用問題を解く上で鍵となった考え方、根拠について説明できる。
授業方法と留意点	演習ではワークブック形式の教科書を用いる。「生物学」の講義と連動して、講義に関連した項目のワークブックの問題を解く。また必要に応じてICTツールによる遠隔授業を行う。状況的に可能な場合は、学生同士でコミュニケーションをとりながら、疑問点の整理や解消を行うグループ学習の形式で演習を進める。その際、授業時間の後半において、質疑応答を行い、不明点を解消する。遠隔授業の場合は授業後に質問を集めて、次の授業時に解説するか、解説資料・動画の配信により疑問点に答える。
科目学習の効果 (資格)	生物学演習の課題に取り組むことで、生物学の講義で学んだ知識を定着させて、生物学の基本的な考え方を身につけることができる。また生物学という学問分野の全体像をおおまかにイメージできるようになる。これらのスキルは高学年次で学ぶ様々な専門科目の知識を統合的に理解する上で必要となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	生体分子	生物を構成する有機分子、高分子の特性に関する演習問題を解く。	事前：シラバスの理解 事後：ミニレポートの提出
	2	細胞	細胞構造(オルガネラ)、原核、真核細胞に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
	3	細胞分裂	細胞膜の構造・特性、体細胞分裂に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
	4	酵素	酵素と代謝反応に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
	5	解糖系・呼吸	解糖系、呼吸系に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
	6	光合成	光合成に関する演習問題を解く。	事後：ミニレポートの提出
	7	遺伝	メンデル遺伝、遺伝子に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
	8	DNA	DNA、半保存的複製に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
	9	遺伝子発現	転写、翻訳、セントラルドグマに関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
	10	染色体	染色体、有性生殖、減数分裂に関する演習問題を解く。	事後：ミニレポートの提出
	11	動物	動物の器官・組織に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
	12	免疫	動物の免疫に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
	13	発生	配偶子形成、受精、発生に関する演習問題を解く。	事後：ミニレポートの提出
	14	植物	植物組織、蒸散、転流に関する演習問題を解く。	事前：事前学習課題の学習
	15	生態・進化	生態系・エネルギー循環、適応進化に関する演習問題を解く。	事後：ミニレポートの提出

実務経験	
関連科目	一年次・後期以降の農学部の専門科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	対面授業
Teams コード	9r7wtx0
Moodle コース名 および登録キー	生物学演習 seibutsuenshu
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	各演習の事前学習課題(15%)、事後課題(15%)、演習(70%)で評価して、60%以上で合格とする。演習の評価においては、学期末に演習で用いたワークブックを提出、15回の演習で取り扱った問題の正答率から算出する。
学生への メッセージ	生物学演習では、課題について調べ、学生同士で話し合い、考えを整理して、解答を「自分の言葉」で記述することをこなしてもらいます。演習を通じて、皆さんの「調べる力」、「説明する力」、「文章を書く力」も伸ばしたいと考えています。
担当者の 研究室等	8号館3階 教員室302、ゲノム生物学研究室
備考	次の演習テーマについて下調べしておくことを事前学習課題とする。



また事後学習課題のミニレポートについては、授業終了時に課題内容を示し、レポートで頻繁に見られた間違いについては授業中に解説する。

科目名	物理学	科目名 (英文)	Fundamentals of Physics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長島 健
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB1012a0		

授業概要・目的	<p>&lt;概要&gt; 物理学は自然現象、科学技術の原理を理解する上で、極めて重要な基礎科目であり、現代の科学技術の基礎をなしている。身近な自然現象、科学技術の成り立ちを物理学の観点から理解するために必要な、物理の法則・原理を説明する。</p> <p>&lt;目的&gt; 身近な自然現象、科学技術の成り立ちを物理法則をもとに理解する力の習得を目的として、物理の法則・原理について学ぶ。</p>
到達目標	物理の様々な法則を理解し、身近な自然現象や科学技術との関係を知る。身近に体験している現象や科学技術の成り立ちを定量的に取り扱う方法について理解する。
授業方法と留意点	<p>本授業はICTツールを用い遠隔で実施する。受講者は、配布した教材（要約を記したプリント）を参照しながら、主として講義ビデオを視聴する。オンライン授業を実施する場合もある。また、数回のレポート課題に取り組む。</p> <p>毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書・資料を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。小テストの正答率の低かった問題を中心に講義で解説する。</p>
科目学習の効果 (資格)	理科教職免許取得につながる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	物理学とは	物理学の役割を身近な例をあげて説明する。数式化の基礎となる物理量の表し方や単位について学ぶ。	————
	2	質点の力学	物理学の基礎となっている質点の運動方程式の復習する。物体に働く様々な力について解説する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
	3	剛体の力学	剛体の重心について説明する。剛体の運動に関わる力のモーメント、慣性モーメントといった物理量の意味を解説する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
	4	熱エネルギー	熱エネルギーの生成・利用方法を示し、熱エネルギーの特性を説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
	5	物質内での分子運動	分子運動と物理量 (圧力、温度など) との密接な関係について、簡単な例を挙げて説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
	6	物質の三態	固体、液体、気体の性質の違いを物理的側面から説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
	7	光の性質 (波動)	波としての光の性質を利用しているさまざまな機器を例に挙げて、光の波動性を説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
	8	光の性質 (粒子)	粒子としての光の性質を利用しているさまざまな機器を例に挙げて、光の粒子性を説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
	9	光のエネルギー	身の周りで体験している自然現象や科学技術を例に挙げて、光のエネルギーの基本的性質について説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
	10	確認テスト	熱と光の分野について、確認テストを実施し、その内容について解説する。	確認テストの復習 (1時間以上)
	11	電荷と力	電荷が受ける力について講述し、利用されている多くの機器 (分析機器や家電) の基本原理についても説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
	12	電流と電圧	電流、電圧、抵抗の関係について簡単な回路を用いて説明する。さらに、電力についても講述する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
	13	電磁波と電気信号	電磁波の性質について講述し、電磁波を利用しているさまざまな機器 (分析機器や家電) の基本原理についても説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
	14	原子物理	物質を構成している原子・分子の構造について説明する。	配布プリント・小テストの復習 (1時間以上)
	15	レポート解説・まとめ	後半に課したレポートの解説をする。さらに本授業の全体をまとめる。	————

実務経験	
------	--

関連科目	物理学実験
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹、上村洸	森北出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
------	-----------------

Teams コード	h0iu7mu
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メールを利用
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポートと小テストにより評価する。レポート 65%、小テスト 35%。60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	本講義では大学受験の物理ではなく、身近な現象や科学技術から見た物理が中心です。この授業を通して、身のまわりの自然現象の原因や最新科学技術の原理・仕組みを考える力を身につけてください。
担当者の 研究室等	質問・問い合わせ等は、まずメールで連絡をお願いします。必要があれば Teams の「会議」で話をします。 ※教員居室：寝屋川キャンパス 8 号館 2 階 長島教授室
備考	

科目名	バイオテクノロジー	科目名 (英文)	Biotechnology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	椎名 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAB1014a0		

授業概要・目的	現在、世界中の農地の1割以上で遺伝子組換え作物が栽培されている。遺伝子組換え技術は、現代農業における生産性拡大に寄与するとともに、農薬使用量の削減など環境保全にも非常に大きな貢献をしている。植物バイオテクノロジーを中心に、バイオテクノロジーの素晴らしい成果と課題を、様々な具体的事例に基づいて紹介する。ゲノム編集技術など、現在のバイオテクノロジーの最先端の話題にも触れる。また、動物や微生物を対象としたバイオテクノロジーの紹介も行う。
到達目標	① バイオテクノロジーの概要を理解する。 ② 植物バイオテクノロジーの現状と課題を理解する。 ③ バイオテクノロジーに関する基本知識を修得する。 ④ ゲノム編集技術など新しいバイオテクノロジー技術の基礎を理解する。 ⑤ バイオテクノロジーの最先端の研究を知る。
授業方法と留意点	教科書と事前配布する資料プリントを使い、オンラインで講義を行う。講義の理解度をはかるために、小テスト（授業内容を参考にし、当日中に提出）とミニレポート（各自学習し、翌週までに提出）を適時実施する。また、教科書の事前学習を行うこと。
科目学習の効果（資格）	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	身近にあるバイオテクノロジー (1)	発酵食品は昔からのバイオテクノロジー。味噌、醤油、漬物やチーズ作りにおける微生物の働きを知るとともに、微生物の代謝についての理解を深める。	事前：シラバスの理解 事後：学習課題の学習
	2	身近にあるバイオテクノロジー (2)	お酒もパンも酵母の助けで作られる。酵母のアルコール発酵を利用したお酒作りとパン作りについて理解し、原料の特質に合った発酵法を考案してきたことを知る。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
	3	微生物バイオテクノロジー	微生物に薬や産業用酵素を作らせる。遺伝子組換え技術を利用した有用タンパク質生産について理解するとともに、その応用例を学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
	4	食糧生産の歴史	農業は古くからのバイオテクノロジー。農業はどのように始まり、どう変わってきたのか？野生植物の栽培化や家畜化、農業技術の歴史を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
	5	植物バイオテクノロジー	遺伝子組換え作物を栽培する理由。遺伝子組換え農業の現状を紹介するとともに、将来の可能性を解説する。遺伝子組換え農業の利点と課題を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
	6	動物バイオテクノロジー	クローン動物って何？再生医療などに使われるバイオ技術を紹介し、その原理を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
	7	ゲノムとバイオテクノロジー	DNA鑑定からオーダーメイド医療まで、ゲノム情報を利用したバイオテクノロジー技術について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
	8	未来のバイオテクノロジー	バイオテクノロジーで持続可能社会を目指す。地球環境の現状を知るとともに、持続可能社会の実現にバイオテクノロジーが果たす役割を考える。また、バイオテクノロジーと社会の関係についても考える。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
	9	持続可能社会とバイオテクノロジー	遺伝子マーカーの開発など、農業におけるゲノム解析について理解する。	事後：学習課題の学習 ミニレポートの提出
	10	微生物工学	微生物を利用して食品やアミノ酸だけでなく、抗生物質や抗ガン剤などを作ることできる。微生物を利用した最新のバイオテクノロジーを紹介する。	事後：学習課題の学習
	11	共生微生物バイオ	共生微生物を利用したバイオテクノロジーを紹介する。	事後：学習課題の学習
	12	植物ゲノム工学	農業における植物ゲノム情報利用について紹介する。	事後：学習課題の学習
	13	動物バイオ	動物を対象としたバイオテクノロジーを紹介する。	事後：学習課題の学習
	14	水産バイオ	水産動物を対象としたバイオテクノロジーを特に魚類育種に関連した技術を中心に紹介する。	事後：学習課題の学習
	15	植物バイオ	実は身近になっている植物のバイオテクノロジーを紹介する。	事後：学習課題の学習
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	ひらく、ひらく「バイオの世界」：14歳からの生物工学入門	日本生物工学会	化学同人
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャンベル生物学	池内昌彦・伊藤元己・箸本春樹 監訳	丸善出版
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業中の講義の学習確認小テスト(30%)、ミニレポート課題(30%)、定期試験(40%)で評価し、60%以上で合格とする。定期試験については、到達目標を評価できるレポート形式とする場合もある。その場合は事前に通知する。			
学生への メッセージ	バイオテクノロジーの歴史から未来まで、わかりやすく紹介します。授業の後半は、各研究室の先生方が、それぞれの専門とするバイオテクノロジーを紹介します。			
担当者の 研究室等	8号館3階 植物分子生理学研究室			
備考				

科目名	生物系統学	科目名 (英文)	Biodiversity and Systematics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小保方 潤一, 井上 亮, 豊原 治彦, 和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○		
科目ナンバリング	OAB1015a0		

**授業概要・目的**  
地球が誕生したのは今から46億年前だが、40億年前の地層からは早くも生命の痕跡が検出されている。その頃の単純な生命体はやがて原核細胞や真核細胞に進化し、さらに進化や分岐を繰り返して地球上の様々な環境に進出し、多様な体制や増殖の仕組みをもつ様々な生物群が出現した。本講義では、生物の系統進化や分類群を縦糸に、それらの生物群が示す体制や生活史等を横糸にして、地球上に棲息する生物たちの多様な世界を具体的に学ぶ。これらの生物の多様性は、産業、文化、農業、応用生命科学、などの基礎ともなっており、この講義ではそれらの関係についても学ぶ。

- 到達目標**
- ① 細胞内共生進化について概説できる。
  - ② 藻類の主な系統と陸上植物について、それらの生活史と進化を概説できる。
  - ③ 古細菌、原核微生物、真核微生物の違いについて理解し、概説できる。
  - ④ 微生物と人間の関わり、産業利用について概略を理解して説明できる。
  - ⑤ 陸上動物の分類が概説できる。
  - ⑥ 産業動物の品種改良について概説できる。
  - ⑦ 主要な水産生物の分類体系について概説できる。

**授業方法と留意点**  
この講義で扱う生物群は、大きく分けて、植物系、微生物系、動物系、海洋生物系、の4つのグループにまたがっており、この4分野を専門とする4名の教員によるリレー方式で講義を進める。また、各回の講義内容に応じて、事前学習や事後学習の課題を提示し、それらを通じて受講生の理解を深める。

**科目学習の効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地球の歴史と生命の誕生	地球の歴史、生命の誕生から光合成生物の出現まで (担当: 小保方 潤一)	事前: シラバスの理解 事後: ミニレポートの提出
2	藻類が生み出した多様な世界	藻類の多様な体制や生活史とその進化 (担当: 小保方 潤一)	事後: ミニレポートの提出
3	陸に上がった植物とその繁栄	陸上植物の系統と生活史など (担当: 小保方 潤一)	事前: 事前学習課題の学習
4	進化と多様性	集団の進化、進化のメカニズム (担当: 小保方 潤一)	事後: ミニレポートの提出
5	原核微生物	古細菌、真性細菌の細胞構造や特徴について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
6	真核微生物	真核微生物である酵母やカビの特徴について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
7	菌類と産業との関わり	さまざまな菌類と人間生活との関わり、産業利用について (担当: 和田 大)	事後: ミニレポートの提出
8	動物、特に脊椎動物の食性の多様化	脊椎動物の分類や多様性について、特に食性に焦点をあてる (担当: 井上 亮)	事後: ミニレポートの提出
9	免疫系からみた脊椎動物の進化	免疫系の多様性から脊椎動物の起源・進化を考える (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習 事後: ミニレポートの提出
10	産業動物 (ウシ) の系統	くらしに関わる動物、特にウシの系統と品種改良について (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習
11	産業動物 (ブタ・ニワトリ) の系統	くらしに関わる動物、特にブタとニワトリの系統と品種改良について (担当: 井上 亮)	事前: 事前学習課題の学習 事後: ミニレポートの提出
12	水産生物の世界: 海綿と刺胞動物	カイメン、クラゲ、サンゴ、イソギンチャクなどの分類と多様性について (担当: 豊原 治彦)	事後: ミニレポートの提出
13	水産生物の世界: 冠輪動物	貝類、イカ・タコ、ゴカイなどの分類と多様性について (担当: 豊原 治彦)	事前: 事前学習課題の学習
14	水産生物の世界: 脱皮動物と新口動物	エビ・カニなどの分類と多様性について (担当: 豊原 治彦)	事後: ミニレポートの提出
15	水産生物の世界: 魚類、両生類、爬虫類、哺乳類	魚類、カエル、ウミガメ、ワニ、クジラなどの分類と多様性について (担当: 豊原 治彦)	事前: 事前学習課題の学習

**実務経験**

**関連科目**

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エッセンシャル キャンベル生物学	Simon, Dickey, Hogan, Reece (池内、伊藤、箸本 監訳)	丸善出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャンベル生物学	Urry, Cain, Wasserman, Minorsky, Reece (池内、伊藤、箸本、道上 監訳)	丸善出版
2			
3			

**授業形態** 対面授業

**Teams コード** tm3boju

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	各授業の事前学習課題 (10%)、授業中の前回講義の学習確認小テスト (20%、15 回目は講義の最後に実施)、事後課題 (10%)、期末試験 (60%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	ゲノム生物学研究室 (小保方)、応用微生物学研究室 (和田)、動物機能科学研究室 (井上)、海洋生物学研究室 (豊原)
備考	

科目名	生化学	科目名 (英文)	Biochemistry
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	和田 大
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎		
科目ナンバリング	OAB1021a0		

授業概要・目的	生化学は、生命現象を化学的に解明しようとする学問である。すなわち、生命現象を分子レベルでの量的質的变化として理解しようとする学問である。農学分野に限らず、広く生命現象の理解に不可欠であり、また、生物機能の利用と応用の観点からも絶対に必要な科目である。本講義では生物の構成と維持に関与する基本的化合物である糖質、タンパク質、脂質などの構造・種類・機能について学修する。これら化合物は、各種生命現象の発現に関わる重要な生化学的化合物であるため、化学構造式に慣れて、十分習熟することを目的とする。
到達目標	生物化学の基本的生体物質（糖質、アミノ酸、タンパク質、ビタミン類、脂質、核酸）について、次の3点ができるようにすること。 ① それぞれ代表的物質を挙げることができる。 ② 基本的な化学構造を説明できる。 ③ 性質・機能・重要性について説明できる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行うが、内容によっては、理解を助けるためにDVDなどによる動画を用いることもある。また、各講義後に、その回に講義した内容に関する小テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	生命現象を化学的な面から理解できる様になり、動物、植物、微生物を問わず、あらゆる生物の活動を正しく理解できるようになります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	生化学とは	イントロダクション、生化学の歴史	事後：小テストの復習
	2	化学の基礎 I	生化学に必須の基礎的知識の復習（化合物の命名法、生体中の有機化合物について）	事後：小テストの復習
	3	化学の基礎 II	生化学に必須の基礎的知識の復習（生体中で起こる化学反応について）	事後：小テストの復習
	4	糖質 I	生体を構成する単糖、少糖類の構造・機能について	事後：小テストの復習
	5	糖質 II	生体を構成する多糖類の構造・機能について	事後：小テストの復習
	6	アミノ酸	アミノ酸の構造と機能	事後：小テストの復習
	7	タンパク質	ペプチド結合、タンパク質の立体構造について	事後：小テストの復習
	8	酵素	生体触媒である酵素反応の基礎	事後：小テストの復習
	9	補酵素	ビタミンや補酵素の構造や機能	事後：小テストの復習
	10	脂質 I	脂肪酸、中性脂肪、リン脂質	事後：小テストの復習
	11	脂質 II	生体膜について	事後：小テストの復習
	12	核酸 I	DNA、RNA 等の基本単位の化学構造	事後：小テストの復習
	13	核酸 II	高分子 DNA、RNA について	事後：小テストの復習
	14	代謝と生合成	糖質、アミノ酸、タンパク質の分解と生合成	事後：小テストの復習
	15	自己複製	DNA の情報に基づくタンパク質生合成機構の基本	事後：小テストの復習

実務経験	
関連科目	化学、化学演習（1年生前期）

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての生化学第2版	平澤栄次	化学同人
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎からわかる生化学	坂本順司	裳華房
	2			
	3			

授業形態	対面授業
Teams コード	674634s
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法（基準）	試験での得点（80%）、講義各回の小試験の点数（20%）を合わせた総合点に基づき評価し、総合点60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	生化学とは細胞の中で絶え間なく起こっている化学反応を理解する学問領域です。皆さんの体内でも、生きている限り化学反応が起こっています。生化学は化学構造式や化学反応式に慣れていないと難しく感じがちですが、生命の理解には必要不可欠なので、頑張ってください。
担当者の研究室等	農学部（8号館）3階307号室、応用微生物研究室
備考	



科目名	化学実験	科目名 (英文)	Experiments in Chemistry
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	椎名 隆, 池田 裕美, 石崎 陽子, 加藤 直樹, 加藤 裕介, 豊原 治彦, 沼本 穂, 増田 太郎, 和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1037a0		

授業概要・目的	農学や生命科学では、新たな発見は常に「実験」からもたらされる。化学や生物の教科書に記載されている今では当然と考えられているような諸現象も、もとをたどれば地道な「実験」から生まれた発見だった。一方、農学・生命科学分野の「実験」を正しく安全に行うためには、化学の基礎的な知識や技術が必須である。この授業では、諸君が自らの力で実験・研究を進めていく力を養うため、農学・生命科学の基礎となっている化学の基本的な事項について、実験を通じて理解を深め、その技術や考え方を身をもって体得してもらおう。
到達目標	① 化学のみならず、実験を進めるうえで必要な準備、片付け、実験に潜む危険など基礎的な注意点を概説できる。 ② 実験であつかう化学現象の原理を説明できる。 ③ 実験レポートのまとめ方、書き方を理解している。
授業方法と留意点	授業は週2日(3時限連続)の5週間の集中講義として10回のテーマに沿って行う。全受講者を2つのグループ(A、B)に別け、それぞれ別の実験室で行う。行う実験の内容は同じであるが、実験装置や備品の都合上、Aグループは1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10、Bグループは1, 2, 5, 6, 7, 8, 9, 3, 4, 10の順番で実験を行う。

科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	基礎化学(導入)	安全講習、実験室・器具の使い方、実験ノートの書き方を学ぶ。(担当:全員)	事前:シラバスの理解
	2	基礎化学	便量の仕方、ピペットマンの使い方、濃度計算、データ整理を学ぶ。(担当:和田、加藤直、沼本、池田)	事前:事前学習課題の学習
	3	分析化学・pH	pHについて(原理と測定:pH試験紙とpHメーター)及びバッファの作製方法を学ぶ。(担当:和田、加藤直、沼本、池田)	事前:事前学習課題の学習
	4	分析化学・滴定	酸塩基滴定により食酢中の酢酸量を測定する。(担当:和田、加藤直、沼本、池田)	事前:事前学習課題の学習 事後:レポートの提出
	5	分析化学・比色(基礎)	比色の原理、吸光度の測定の基礎を学び、清涼飲料水中のグルコース濃度を比色法により測定する。(担当:豊原、増田、沼本、池田)	事前:事前学習課題の学習
	6	分析化学・比色	緑茶タンニン量を比色法により測定する。(担当:椎名、加藤裕、沼本、池田)	事前:事前学習課題の学習 事後:レポートの提出
	7	分析化学・クロマトグラフィー(イオン交換クロマトグラフィー)	クロマトグラフィーの原理を学び、イオン交換樹脂によって食塩水を水にする。(担当:椎名、加藤裕、沼本、池田)	事前:事前学習課題の学習
	8	分析化学・クロマトグラフィー(ガスクロマトグラフィー)	ガスクロマトグラフィーにより溶液中のアルコール類を検出し、クロマトグラフィーによる測定を理解する。(担当:豊原、増田、沼本、池田)	事前:事前学習課題の学習 事後:レポートの提出
	9	有機化学・卵の化学	卵を使って、タンパク質の変性、酸・アルカリ分解や、硫黄を含むアミノ酸の存在を確かめる。(担当:豊原、増田、沼本、池田)	事前:事前学習課題の学習 事後:レポートの提出
	10	データ分析と視覚化	9回目までで得たデータを使い、Excelを使った簡単な統計比較や、データをグラフ化し視覚的に表現することを学ぶ。(担当:椎名、加藤裕、沼本、池田)	事前:事前学習課題の学習 事後:レポートの提出
	11			
	12			
	13			
	14			
15				

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実験に関するプリント教材を配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名	
および登録キー	

連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	各授業の事前学習課題及び実習への取り組み（ルーブリック評価・40%）、レポート（60%）で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	植物分子生理学研究室（椎名、加藤裕介）、応用微生物学研究室（和田、加藤直樹）、海洋生物学研究室（豊原、増田）
備考	

科目名	生物学実験	科目名 (英文)	Experiments in Biology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小保方 潤一, 池田 裕美, 石崎 陽子, 井上 亮, 海道 真典, 田中 茂幸, 沼本 穂, 松尾 充啓, 芳本 玲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1038a0		

授業概要・目的 「生物学」は、「農学」や「生命科学」の土台である。しかしこの土台は、教科書を読んだり講義を聴いたりするだけで学べるものではない。諸君が生物を見て、触って、実験をして、あれこれ感じ、考える、これら全てを本の頁に書き込めるだろうか？教科書や参考書に書かれている生物学は、先人達が生き物や現象と必死に格闘して辿り着いた最後の結論の、ほんの一部にすぎない。諸君自身が生き物に触り、観察し、実験し、そして、教科書に書かれていないことを感じ、考える、その上で教科書を批判的に読む、こうして「生物学」の、そして「農学」や「生命科学」の土台が出来ていく。この授業では、限られた実験メニューではあるが、諸君自身にとっての新しい「発見」をしてもらいたい。

- 到達目標
- ① 実験室や実験に使う器具・装置の正しい取り扱い方を理解し、説明できる。
  - ② 実験レポートのまとめ方、書き方を理解している。
  - ③ 各回の実験の内容を概説し、その意味を説明できる。
  - ④ 各回の実験で、自分にとっての新しい発見があったことを、一つ以上説明できる。

授業方法と留意点 授業は対面方式、週2日(3~5時限)で5週間で実施し、10のテーマに沿って実験を行う。実験の実施にあたっては、三密にならないよう特別の配慮を行い、履修生にはその都度の注意を周知徹底する。全受講者をAとBの2グループに別け、別々の実験室で授業を行うが、実験装置などの関係で、同一日にAとBの実験内容が重ならないようにする。このため、Aグループのテーマは(下記の1.2.3.4.5.6.7.8.9.10)の順で、Bグループは(下記の2.1.4.3.6.5.9.10.7.8)の順で実験を行う。基本的に各回が独立した

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	顕微鏡とミクロの世界	安全講習、実験室・器具の取り扱い方、実験レポートの書き方、顕微鏡の取り扱い方、スケッチの仕方、微生物・細胞・組織の観察。(担当:全員)	事前: シラバスの理解 事後: 実験レポートの提出
2	光合成色素	藻類と高等植物から有機溶媒によって光合成色素を抽出し、薄層クロマトグラフィによって分離し、比較分析する。(担当:小保方、松尾、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
3	染色体	タマネギの根端分裂組織からプレパラートを作成し、染色体を観察する。ショウジョウバエの多糸染色体を観察する。(担当:海道、田中、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
4	核酸	ブロッコリーから核酸を抽出し、その基本的な性質を学ぶ。分光光度計の使い方を学ぶ。(担当:小保方、松尾、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
5	酵素反応	アミラーゼによるデンプン分解反応を、分光光度計を使って測定する。酵素の基本的な性質を学ぶ。(担当:井上、芳本、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
6	光合成	オオカナダモの光合成速度を測定し、光合成に対する光や温度の影響を調べる。(担当:小保方、松尾、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
7	細菌と無菌操作	滅菌操作、無菌操作、液体培地と寒天培地の調製、細菌の培養、など。(担当:海道、田中、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習
8	微生物の増殖	コロニーの計数、液体培養での濁度測定。(担当:海道、田中、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
9	動物の体のつくり	ラットと魚類の解剖を行う。(担当:井上、芳本、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習
10	消化管組織	動物の消化管組織を比較・観察する。(担当:井上、芳本、沼本、池田)	事前: 事前学習課題の学習 事後: 実験レポートの提出
11			
12			
13			
14			
15			

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実験に関するプリント教材を配布		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				
3				

授業形態 対面授業

Teams コード f6uil7h

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業の事前学習課題と実習への取り組み（ルーブリック評価・40%）、事後の実験レポート（60%）で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	高校で生物を学習していない方は、生物学の考え方などをこの実験を通して学んで下さい。高校で生物を学習した方は、高校生物での内容と専門科目で学習する内容との関連性がこの実験を通して確認できると思います。いずれにせよ、実験の最中は「なぜそうなるのか、なぜそうするのか」を常に考え、感じた疑問は自分なりに調べる習慣をつけてください。
担当者の 研究室等 備考	ゲノム生物学研究室（小保方、松尾）、動物機能科学研究室（井上、吉本）、植物環境微生物学研究室（海道、田中）

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小保方 潤一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1062a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。  SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス  ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。  摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。  事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。  第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④  「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	井上 亮
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1062a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。  SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。  摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。  事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。  第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④  「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				



科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	椎名 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1062a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。  SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。  摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。  事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。  第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④  「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	豊原 治彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1062a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。  SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する

科目学習の 効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。
------------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス  ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。  摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。  事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。  第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④  「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1062a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。  SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する

科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。  摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。  事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。  第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④  「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内で、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	海道 真典
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1062a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。  SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。  摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。  事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。  第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTubeの利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④  「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。																
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。																
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上																
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上																
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内で、事前・事後指導について指示する。																
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出																
実務経験																				
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。																			
担当者の 研究室等																				
備考																				



科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加藤 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1062a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。  SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する

科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。  摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。  事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。  第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④  「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	増田 太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1062a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。  SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。  摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。  事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。  第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④  「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加藤 裕介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1062a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。  SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス  ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。  摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。  事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。  第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTubeの利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④  「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 茂幸
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1062a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。  SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する

科目学習の 効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。
------------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス  ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。  摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。  事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。  第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④  「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				



科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松尾 充啓
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1062a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。  SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する

科目学習の 効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。
------------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス  ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。  摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。  事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。  第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④  「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。																
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。																
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上																
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上																
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。																
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出																
実務経験																				
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	芳本 玲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAB1062a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。  SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する

科目学習の 効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。
------------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス  ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。  摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。  事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。  第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST, 資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。  事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④  「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	喜多 大三, 大塚 正人, 加藤 裕介, 戴 容泰思, 藤井 毅, 藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	OHU1401a2		

授業概要・目的	<p>本科目の講義目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することである。授業では教養入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、及びコミュニケーション能力を身につけることを目指す。</p> <p>SDG s 1～17</p>			
到達目標	<p>① 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。          ② ABD による読書法を身につけている。          ③ チームワーク能力を身につけ、対話を通じて協働学習をすることができる。          ④ SDGs (Sustainable Development Goals) と UNAI (The United Nations Academic Impact) について基本的な知識を身につけている。          ⑤ 読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。          ⑥ コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。</p>			
授業方法と留意点	<p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得する。教養入門書を用いて ABD 読書法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験する。本科目は、これまでの講義とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるため、諸君が積極的に参加することが大切である。この講義は遠隔授業形式で行う。</p> <p>授業計画は以下の通りとなる。          大学教養入門          6月20日 第1回・第2回：チームビルディング</p>			
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生に必要な教養の基礎知識が身につく、ABD 読書法等の協働学習により、文章の要約、プレゼンテーション、対話の基本が身につく。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	枚方 CP キックオフ 4月18日 (9:20~11:00)	チームビルディングの研修プログラム	
	2	枚方 CP キックオフ 4月18日 (11:10~12:30)	チームビルディングの研修プログラム	
	3	枚方 CP キックオフ 9時20分~14時20分  ガイダンス (14:20~14:50) 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか 4月18日	チームビルディングの研修プログラム  本科目の特徴、どのような力が身につくのかを知り、授業の概要、目的、到達目標およびスケジュールと ABD 読書法の説明などを受ける。	事前：大人の教養の「序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか」を読むこと。  事後：ABD 読書方法の確認と理解をすること。
	4	読解力テスト(事前)  大学教養入門：「第二章 宇宙」  4月25日	読解力テスト(事前：20分)  教科書の紹介、本日の概要、チーム作り、授業の約束事、ABD による学習の進め方の説明する。 「第二章 宇宙」章を ABD 法により学修する。 ジグソー法(11~12 チーム単位)	事前：「大人の教養 第二章 宇宙」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。
	5	大学教養入門：「第二章 宇宙」  4月25日	QFT の説明と実践、振り返りシートの作成と提出	事後：「第二章 宇宙」のサマリーシート及び事後学習シートに 380~400 文字で要約し、提出する。
	6	大学教養入門：「第四章 人間と病気」  5月2日	「第四章 人間と病気」章を ABD 法により学修する。 解説 協働学習、対話、理解度確認テスト、サマリーシートへの記入。  ジグソー法(11~12 チーム単位)	事前：「大人の教養 第四章 人間と病気」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。
	7	大学教養入門：「第四章 人間と病気」  5月2日	QFT の説明と実践、振り返りシートの作成と提出	事後：「大人の教養 第四章 人間と病気」のサマリーシート及び事後学習シートに 380~400 文字で要約し、提出する。
	8	大学教養入門：「第六章 歴史」  5月9日	「第六章 歴史」章を ABD 法により学修する。 解説 協働学習、対話、理解度確認テスト、サマリーシートへの記入。  ジグソー法(11~12 チーム単位)	事前：「大人の教養 第六章 歴史」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。
	9	大学教養入門：「第六章 歴史」  5月9日	QFT の説明と実践、振り返りシートの作成と提出	事後：「大人の教養 第六章 歴史」を事後学習シートに 380~400 文字で要約し、提出する。
	10	世界を知る教養：国際連合：	SDGs の概要、SDGs ゲーム、理解度確認	事前：「SDG s と国連アカデミックインパクト」を読

		サステイナブルディベロップメントゴールズ (Sustainable Development Goals : SDGs) 6月20日	テスト、振り返りシートへの記入。	み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。																
	11	世界を知る教養：国際連合アカデミックインパクト (UN academic impact) 6月20日	国連の役割と歴史、本学の取り組み、理解度確認テスト、振り返りシートへの記入。 振り返りレポート①(SDGs及び国連アカデミックインパクト)の作成	事後：「SDGs及び国連アカデミックインパクト」のサマリーシート及び事後学習シートに380～400文字で要約し、提出する。 また、振り返りレポート①の作成を提出する。																
	12	自分を知る教養：「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教育 6月27日	解説 協働学習、プレゼンテーション、対話、理解度確認テスト、振り返りシートへの記入。 ジグソー法(11～12チーム単位)	事前：アドラー心理学入門「第二章アドラー心理学の育児と教育」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。																
	13	自分を知る教養：「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教育 6月27日	QFTの説明と実践、振り返りシートの作成と提出	事後：アドラー心理学入門「第二章アドラー心理学の育児と教育」のサマリーシート及び事後学習シートに380～400文字で要約し、提出する。																
	14	自分を知る教養：「アドラー心理学入門」第三章 横の関係と健康なパーソナリティ 7月4日	解説 協働学習、プレゼンテーション、対話、理解度確認テスト、振り返りシートへの記入。 ジグソー法(11～12チーム単位) QFTの実践、振り返りシートの作成と提出	事前：アドラー心理学入門「第三章 横の関係と健康なパーソナリティ」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。 事後：アドラー心理学入門「第二章アドラー心理学の育児と教育」のサマリーシート及び事後学習シートに380～400文字で要約し、提出する。																
	15	大学教養入門：まとめ 読解力テスト(事後) 7月4日	グループワーク 「教養とは何か」に関する振り返りレポート②の作成 読解力テスト(事後：20分) 事後アンケート	振り返りレポート②の作成と提出する。																
実務経験																				
関連科目	摂南大学で開講されている科目すべて。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	リーディングスキルテスト(個人10%)、事前学習シート(個人10%)、事後学習シート(個人10%)、ふりかえりシート(個人20%)、理解度確認テスト(個人10%)、大学教入門まとめレポート(個人40%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格する。定期試験は実施しない。																			
学生への メッセージ	この科目は2018年から寝屋川キャンパスで開講されている科目で、全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。大学生としてふさわしい教養の基礎と主体的な学習方法が身につく、さらに学部学科を超えて友人を作ることが出来るでしょう。																			
担当者の 研究室等	喜多 大三 (農学部8号館2F) 大塚 正人 (薬学部1号館5F) 加藤 裕介 (農学部8号館3F) 戴 容泰思 (農学部8号館2F) 藤井 毅 (農学部8号館2F) 藤林 真美 (農学部8号館3F)																			
備考																				

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。2回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。
科目学習の効果(資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	———
	2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す
	14	【レポート】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

実務経験	
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の 研究室等	1号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	———
	2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す
	14	【レポート】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語(話し言葉)と、レポートなどで書く日本語(書き言葉)は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語(話し言葉、書き言葉)と向き合ってください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	総学習時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。



科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岡 隼人
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、英語で自己紹介	授業の進め方やルールを説明した後に、英語で互いに自己紹介をする。	課題とテキストの予習・復習
	2	TOEIC Talking about Music	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	3	TOEIC What's Takoyaki What's Fushimi Inari Taisha	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	4	TOEIC Talking about Sports	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	5	TOEIC What's Abeno Harukas What's Kinkaku-ji	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	6	TOEIC Talking about Cafes	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	7	TOEIC What's Koshien What's Matcha Tiramisu	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	8	TOEIC Talking about Time	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	9	TOEIC What's Todai-ji What's Yatsushashi	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	10	TOEIC Talking about Ramen	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	11	TOEIC What's Himeji-jo What's Umeboshi	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	12	TOEIC Talking about Convenience Store	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	13	TOEIC What's Biwako What's Kiyomizu-dera	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	14	TOEIC Talking about Your House & Neighborhood	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	15	まとめ	これまでの内容の復習および確認テストを行う。	課題とテキストの予習・復習

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Talking About!	岡 隼人、藤田 淳一 他	アルビオン・ブックセラーズ
	2	All-Powerful Steps for the TOEIC Listening and Reading Test	Takayuki Ishii 他	成美堂
	3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%
学生への メッセージ	間違っても構わないので、積極的に挙手・発言・回答をすること。 英語学習に対する誠意と熱意を評価する。
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 祐美子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Useful Classroom Language		
	2	Unit 1 Nice to meet you!	挨拶・be・information Question に慣れる	Online Practice で予習すること
	3	Unit 1 Nice to meet you!	挨拶・be・information Question に慣れる	Online Practice で予習復習すること
	4	Unit 2 What do you do?	職業・wh-question	Online Practice で予習復習すること
	5	Unit 2 What do you do?	職業・wh-question	Online Practice で予習復習すること
	6	Unit 3 Do you like spicy food?	飲食物・simple present	Online Practice で予習復習すること
	7	Unit 3 Do you like spicy food?	飲食物・simple present	Online Practice で予習復習すること
	8	まとめテスト (Unit 1-3)		Online Practice で予習復習すること
	9	Unit 4 How often do you do yoga?	運動・frequency adverbs and time expressions	Online Practice で予習復習すること
	10	Unit 4 How often do you do yoga?	運動・frequency adverbs and time expressions	Online Practice で予習復習すること
	11	Unit 5 What are you watching?	毎日の行動・present continuous	Online Practice で予習復習すること
	12	Unit 5 What are you watching?	毎日の行動・present continuous	Online Practice で予習復習すること
	13	Unit 6 Where were you Yesterday?	問題・past tense of be	Online Practice で予習復習すること
	14	Unit 6 Where were you Yesterday?	問題・past tense of be	Online Practice で予習復習すること
	15	まとめテスト (Unit 4-6)		Online Practice で予習復習すること

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Third Edition	Ken Wilson	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名	
および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% まとめテスト 30% 授業内課題 20% 発表 20%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 祐美子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけではなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。ICTを駆使した自律型英語学習の技能と習慣を身に着けること、学内で提供される様々な授業外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	1) 大学生にとって身近な課題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発音(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献することが重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Useful Classroom Language		
	2	Unit 1 Nice to meet you!	挨拶・be・information Question に慣れる	Online Practice で予習すること
	3	Unit 1 Nice to meet you!	挨拶・be・information Question に慣れる	Online Practice で予習復習すること
	4	Unit 2 What do you do?	職業・wh-question	Online Practice で予習復習すること
	5	Unit 2 What do you do?	職業・wh-question	Online Practice で予習復習すること
	6	Unit 3 Do you like spicy food?	飲食物・simple present	Online Practice で予習復習すること
	7	Unit 3 Do you like spicy food?	飲食物・simple present	Online Practice で予習復習すること
	8	まとめテスト (Unit 1-3)		Online Practice で予習復習すること
	9	Unit 4 How often do you do yoga?	運動・frequency adverbs and time expressions	Online Practice で予習復習すること
	10	Unit 4 How often do you do yoga?	運動・frequency adverbs and time expressions	Online Practice で予習復習すること
	11	Unit 5 What are you watching?	毎日の行動・present continuous	Online Practice で予習復習すること
	12	Unit 5 What are you watching?	毎日の行動・present continuous	Online Practice で予習復習すること
	13	Unit 6 Where were you Yesterday?	問題・past tense of be	Online Practice で予習復習すること
	14	Unit 6 Where were you Yesterday?	問題・past tense of be	Online Practice で予習復習すること
	15	まとめテスト (Unit 4-6)		Online Practice で予習復習すること

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Third Edition	Ken Wilson	Oxford University Press
	2	The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名  
および登録キー

連絡手段

メールアドレス  
メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。  
メールアドレス:

評価方法(基準)  
全学共通英語課題 30%  
まとめテスト 30%  
授業内課題 20%  
発表 20%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等  
1号館2階非常勤講師室

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は非常勤講師室で対応する。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岡 隼人
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、英語で自己紹介	授業の進め方やルールを説明した後に、英語で互いに自己紹介をする。	課題とテキストの予習・復習
	2	TOEIC Talking about Music	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	3	TOEIC What's Takoyaki What's Fushimi Inari Taisha	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	4	TOEIC Talking about Sports	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	5	TOEIC What's Abeno Harukas What's Kinkaku-ji	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	6	TOEIC Talking about Cafes	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	7	TOEIC What's Koshien What's Matcha Tiramisu	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	8	TOEIC Talking about Time	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	9	TOEIC What's Todai-ji What's Yatsushashi	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	10	TOEIC Talking about Ramen	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	11	TOEIC What's Himeji-jo What's Umeboshi	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	12	TOEIC Talking about Convenience Store	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	13	TOEIC What's Biwako What's Kiyomizu-dera	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	14	TOEIC Talking about Your House & Neighborhood	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
		15	まとめ	これまでの内容の復習および確認テストを行う。

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Talking About!	岡 隼人、藤田 淳一 他	アルビオン・ブックセラーズ
	2	All-Powerful Steps for the TOEIC Listening and Reading Test	Takayuki Ishii 他	成美堂
	3	『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition-』	西谷 恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%
学生への メッセージ	間違っても構わないので、積極的に挙手・発言・回答をすること。 英語学習に対する誠意と熱意を評価する。
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岡 隼人
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える課題未提出のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	シラバス等の確認	課題とテキストの予習
	2	TOEIC Unit 4 前半 Talking about Convenience Store	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	3	TOEIC Unit 4 後半 What's Yatsushashi	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	4	TOEIC Unit 4 の復習 Talking about Your House & Neighborhood	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	5	TOEIC Unit 5 前半 What's Himeji-jo	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	6	TOEIC Unit 5 後半 Talking about School	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	7	TOEIC Unit 5 の復習 What's Umeboshi	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	8	TOEIC Unit 6 前半 Talking about Tapioca Tea	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	9	TOEIC Unit 6 後半 What's Biwako	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	10	TOEIC Unit 6 の復習 Talking about Amusement Parks	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	11	TOEIC Unit 7 前半 What's Kiyomizu-dera	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	12	TOEIC Unit 7 後半 Talking about Mangas	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	13	TOEIC Unit 7 の復習 What's Kushikatsu	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	14	TOEIC Half Test Reading	TOEICの模擬試験(ハーフテスト)を行う。	課題とテキストの予習・復習
	15	TOEIC Half Test Reading	TOEICの模擬試験(ハーフテスト)を行う。	課題とテキストの予習・復習

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Talking About!	岡 隼人、藤田 淳一 他	アルビオン・ブックセラーズ
	2	All-Powerful Steps for the TOEIC Listening and Reading Test	Takayuki Ishii 他	成美堂
	3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition	西谷 恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
Teams コード	qlxgfm
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	全学共通英語課題 30%



(基準)	課題の提出とその内容、積極性など 70%
学生へのメッセージ	大変な時期ですが、頑張りましょう。
担当者の研究室等	担当者連絡先 hayato.oka@edu.setsunan.ac.jp
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業課題内に記す。その他の質問等はメール等で対応する。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保 祐美子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 7 Which one is cheaper?	衣服・comparative adjectives	Online Practiceで予習復習すること
3	Unit 8 What's she like?	外見と性格・be like and look like	Online Practiceで予習復習すること
4	Unit 8 What's she like?	外見と性格・be like and look like	Online Practiceで予習復習すること
5	Unit 9 What can you do here?	地元の魅力・can and can't	Online Practiceで予習復習すること
6	Unit 9 What can you do here?	地元の魅力・can and can't	Online Practiceで予習復習すること
7	まとめテスト (Unit 7-9)		Online Practiceで予習復習すること
8	Unit 10 Is there a bank near here?	町周辺・there is and there are	Online Practiceで予習復習すること
9	Unit 10 Is there a bank near here?	町周辺・there is and there are	Online Practiceで予習復習すること
10	Unit 11 Did you have a good time?	休暇の行動・simple past	Online Practiceで予習復習すること
11	Unit 11 Did you have a good time?	休暇の行動・simple past	Online Practiceで予習復習すること
12	Unit 12 I'm going to go by car.	交通・going to + verb	Online Practiceで予習復習すること
13	Unit 12 I'm going to go by car.	交通・going to + verb	Online Practiceで予習復習すること
14	総復習		Online Practiceで予習復習すること
15	まとめテスト (Unit 10-12)		Online Practiceで予習復習すること

実務経験	
関連科目	他の英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	15g351t
Moodleコース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	全額共通英語課題 30% Online Practice 30% 授業内課題 20% 発表 20%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保 祐美子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけではなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。ICTを駆使した自律型英語学習の技能と習慣を身に着けること、学内で提供される様々な授業外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	1) 大学生にとって身近な課題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発音(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献することが重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 7 Which one is cheaper?	衣服・comparative adjectives	Online Practiceで予習すること
	2	Unit 7 Which one is cheaper?	衣服・comparative adjectives	Online Practiceで予習復習すること
	3	Unit 8 What's she like?	外見と性格・be like and look like	Online Practiceで予習復習すること
	4	Unit 8 What's she like?	外見と性格・be like and look like	Online Practiceで予習復習すること
	5	Unit 9 What can you do here?	地元の魅力・can and can't	Online Practiceで予習復習すること
	6	Unit 9 What can you do here?	地元の魅力・can and can't	Online Practiceで予習復習すること
	7	まとめテスト (Unit 7-9)		Online Practiceで予習復習すること
	8	Unit 10 Is there a bank near here?	町周辺・there is and there are	Online Practiceで予習復習すること
	9	Unit 10 Is there a bank near here?	町周辺・there is and there are	Online Practiceで予習復習すること
	10	Unit 11 Did you have a good time?	休暇の行動・simple past	Online Practiceで予習復習すること
	11	Unit 11 Did you have a good time?	休暇の行動・simple past	Online Practiceで予習復習すること
	12	Unit 12 I'm going to go by car.	交通・going to + verb	Online Practiceで予習復習すること
	13	Unit 12 I'm going to go by car.	交通・going to + verb	Online Practiceで予習復習すること
	14	総復習		Online Practiceで予習復習すること
15	まとめテスト (Unit 10-12)		Online Practiceで予習復習すること	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Third Edition	Ken Wilson	Oxford University Press
	2	The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	u5d3m3y
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% Online Practice 30% 授業内課題 20% 発表 20%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は非常勤講師室で対応する。

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岡 隼人
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える課題未提出のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	シラバス等の確認	課題とテキストの予習
	2	TOEIC Unit 4 前半 Talking about Convenience Store	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	3	TOEIC Unit 4 後半 What's Yatsushashi	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	4	TOEIC Unit 4 の復習 Talking about Your House & Neighborhood	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	5	TOEIC Unit 5 前半 What's Himeji-jo	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	6	TOEIC Unit 5 後半 Talking about School	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	7	TOEIC Unit 5 の復習 What's Umeboshi	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	8	TOEIC Unit 6 前半 Talking about Tapioca Tea	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	9	TOEIC Unit 6 後半 What's Biwako	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	10	TOEIC Unit 6 の復習 Talking about Amusement Parks	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	11	TOEIC Unit 7 前半 What's Kiyomizu-dera	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	12	TOEIC Unit 7 後半 Talking about Mangas	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	13	TOEIC Unit 7 の復習 What's Kushikatsu	TOEICの演習をした後に、身近なテーマについて英文を作り会話する。	課題とテキストの予習・復習
	14	TOEIC Half Test Reading	TOEICの模擬試験(ハーフテスト)を行う。	課題とテキストの予習・復習
	15	TOEIC Half Test Reading	TOEICの模擬試験(ハーフテスト)を行う。	課題とテキストの予習・復習

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Talking About!	岡 隼人、藤田 淳一 他	アルビオン・ブックセラーズ
	2	All-Powerful Steps for the TOEIC Listening and Reading Test	Takayuki Ishii 他	成美堂
	3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition	西谷 恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
Teams コード	55tszhr
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	全学共通英語課題 30%

(基準)	課題の提出とその内容、積極性など 70%
学生へのメッセージ	大変な時期ですが、頑張りましょう。
担当者の研究室等	担当者連絡先 hayato.oka@edu.setsunan.ac.jp
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業課題内に記す。その他の質問等はメール等で対応する。

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OIL1414a2		

授業概要・目的	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	8号館1階 (非常勤講師室)			
備考				



科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OIL1415a2		

授業概要・目的	大学生生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PCを使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。 実習を中心に行うため、授業への出席は必須であり、遅刻も厳禁とする。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習 (1時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30分)
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がいないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定		区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集		複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用		データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定		データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

実務経験

関連科目

情報リテラシー I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる マスター Microsoft Office	富士通 FOM	FOM 出版

		Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】		
	2	よくわかる マスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書		番号	書籍名	著者名
		1		
		2		
		3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder 初回から両方使用			
Teams コード	o99eqd8			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (60%)、模擬試験や総合課題などの演習 (30%)、学生間の相互発表等 (10%) を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (8号館1階)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。			

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀧 千波, 小寺 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1416a2		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的とする。本科目では、スポーツ・身体運動を通して①健康の維持・増進をはかる②運動技能を向上させることができる③マナーやルールを理解することができる④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことを目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	授業方法は、教材・課題提供型とし、Microsoft Teams、Moodle の 2 つの ICT ツールを使用する。実技および講義教材を用いて一定期間内に学修し、課題を作成・提出することにより授業目的・到達目標の達成を目指す。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」: コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」: 自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」: 課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など (講義室)	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30 分)
2	体力測定①	体力測定 屋外種目 (グラウンド)	測定記録評価 (事前事後学習時間 30 分)
3	体力測定②	体力測定 屋内種目 (体育館)	測定記録評価 (事前事後学習時間 30 分)
4	体力測定集計・評価	体力測定の集計・評価 (講義室)	測定記録評価 各自の体力要素を評価すると共に、今後の課題・解決方法を理解する。 (事前事後学習時間 30 分)
5	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
6	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
7	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
8	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
9	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
10	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
11	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
12	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
13	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
14	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
15	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 本科目の振り返り (事前事後学習時間 30 分)

実務経験	
関連科目	スポーツ科学Ⅱ、栄養とスポーツ、栄養と健康

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	活動点50%、課題点50%として、総合評価する。			
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用すること			

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目名(英文)	Sports Science II
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美, 渡部 将之
ディプロマポリシー(DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1417a2		

授業概要・目的	「スポーツ科学Ⅰ」で培った学修内容を応用し、心技体のさらなる向上を目標とする。①<心>スポーツ活動を通じた成功体験や規範遵守、主体性、自己統制、表現力、協調性、他者受容意識の向上など人間力の醸成を目指す。②<技>スポーツ科学Ⅰよりも高度なスポーツ技術の獲得を目指す。③<体>運動やスポーツが身体へ及ぼす影響やそのメカニズムについて理解し、自らの生活行動の中にスポーツを実践できる能力の育成を目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②生涯スポーツへ継続できる ③運動・スポーツの役割や、それらが生体へ及ぼすメカニズムについて理解できる ④多様な背景をもつ人々に対する運動・スポーツの実践方法を身につける
授業方法と留意点	メンバーを2コースに分け、グラウンドにおいて行う。 開講種目は、フットサル、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど 雨天などの際は、屋内種目を行う場合もある。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」: コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」: 自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」: 課題解決能力を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	履修上の注意など(講義室) コース分け	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30分)
2	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習(グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
3	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
4	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
5	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
6	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
7	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習(グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
8	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
9	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
10	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
11	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
12	各コース別実技③ 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習(グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
13	各コース別実技③ ゲーム	基礎技術練習、攻防練習(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
14	各コース別実技③ ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
15	各コース別実技③ ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 本科目の振り返り (事前事後学習時間 30分)	

実務経験				
関連科目	スポーツ科学Ⅰ、栄養とスポーツ、栄養と健康			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業			
Teams コード	rhszh46			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	チャット（チャットが使用不可の場合は学内メール）			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。			
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。			
担当者の 研究室等	8号館3階 食品栄養学科 運動生理学研究室			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 萍萍
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1418a2		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。本授業は、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことを目指している。これにより、学生の友人や教員との関係の変化に柔軟に対応できるような人間力を得て、他者と接する上での心のあり方やマナーなどの態度について改善されることも期待している。</p> <p><b>【授業目的】</b> 本講義の目的は下記の3つである。 1) 心理学という学問に対する初歩的な理解ができるようにする。 2) 情報を捉えるメカニズムを理解できるようにする。 3) 自己を探索するための手がかりをつかめるようにする。</p>
到達目標	<p>本講義の具体的な到達目標として以下の3点を挙げる。 1) 「学問としての心理学」に触れ、通俗的な心理学への誤解を解く。 2) 心理学のいくつかの理論について説明が出来る。 3) 現実場面の現象を見て、心理学の理論で解釈が出来る。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>Teams と Moodle を用いた遠隔授業で行う。</li> <li>受講生は、必ず毎週各自 PC やスマホなどを利用して、Teams や Moodle にアクセスすること。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
2	心理学概論	心理学の歴史、発展、学派、研究対象、研究分野、研究方法等について概説します。	心理学に対するこれまでのイメージと比較しながら、新たに認識した心理学を考えましょう。教科書第10章を予習してください。
3	心と脳	心と脳、脳と行動、脳の特徴・構造、部位の損傷と症状、脳波と自律系反応、睡眠と夢、記憶と脳、発達と脳について解説します。	脳に関する写真・ビデオなどを図書館などで見つけ、授業内容を映像で理解してください。3D Brain というアプリをダウンロードして、脳の各構造と機能を学習してください。
4	感覚と知覚(1)	感覚(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・皮膚感覚)の種類と特性、感覚の役割・相互作用・基本特性について解説します。	教科書の第5章を事前に予習してください。
5	感覚と知覚(2)	知覚の体系化、知覚の恒常性、距離・奥行き、動きの知覚、動きの知覚、知覚から認知へについて解説します。	教科書の第5章を事前に予習してください。「錯覚」の例を調べてきてA4 1枚のレポートにまとめましょう。
6	学習	学習とは、学習の方法、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、二つの条件づけの違いについて解説します。	教科書第4章の前半を事前に予習してください。例を挙げながら、二つの条件づけの違いについてレポートにまとめましょう。
7	記憶	記憶の過程、短期記憶、長期記憶、系列位置効果、忘却のメカニズムについて解説します。	教科書第4章の後半を事前に予習してください。
8	思考と言語	演繹推論と帰納推論、問題解決、概念とカテゴリ化について解説します。	教科書第6章を事前に予習してください。
9	動機づけと情動	動機づけの分類、達成と自己実現の動機づけ、フラストレーションと葛藤、情動の種類、情動の認知評価説について解説します。	教科書第7章を事前に予習してください。
10	パーソナリティ	精神分析学とパーソナリティ、外見とパーソナリティ、類型論、特性論、血液型とパーソナリティについて解説します。	教科書第8章を事前に予習してください。事前に自身のパーソナリティがどのようなものであるかについて、すぐ答えられるようになっておいてください。
11	発達	遺伝と環境、行動発達を規定する要因、発達の変化、発達障害について解説します。	教科書第3章を事前に予習してください。
12	社会的認知	自己の認知(自我と自己、自己評価)、印象形成、帰属過程、クレーの共変動モデルについて解説します。	教科書第9章前半を事前に予習してください。
13	対人魅力と対人関係	対人魅力の規定要因、自己開示と自己呈示について解説します。	教科書第9章9.5を事前に予習してください。
14	社会的影響と集団	態度と説得、社会的促進、社会的な手抜き、同調、少数派集団の影響、集団意思決定について解説します。	教科書第9章9.3と9.4と9.6を事前に予習してください。これまでの授業テーマを見直し、最も興味のあるもの、そしてそれに関わる現象について考えてみてください。
15	まとめ	授業全体のまとめ	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

実務経験				
関連科目	後期の「心理学Ⅱ」もあわせて取ることを推奨します。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学 [第5版]	鹿取廣人など	東京大学出版
	2			



	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学	無藤隆など	有斐閣
	2	心理学概論	岡市廣成・鈴木直人（編）	ナカニシヤ出版
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	【授業内テスト】40% 【授業課題】30% 【教科書を用いた課題（小レポート）】30%  ※授業内テストは開講日時から1週間の間しか受験できません。 ※課題に関しては締切があります。締切を必ず守ること。			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めてください。			
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部事務室			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間かけるようにしてください。 遅刻、講義中の無断退出、私語等は他の受講者の迷惑にもなりますので厳に謹んでください。 配布された資料は各自で管理を行ってください。再配布等は致しません。 前回授業の資料を参照する場合がありますので、直近の授業で配布された資料は持参するように心がけてください。 授業内課題等の提出は、当該授業時間内のみ受け付けます。授業時間外は一切受け付けません。			

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1419a2		

授業概要・目的	<p>「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためでしかないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいると知っ ていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって違い優劣はないとしたら、他人 にアドバイスしたり批判することは余計なこと、失礼なことだろうか?」</p> <p>このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある??人によってはよく考えている??ことなのでは ないかと思えます。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェ ンダー等)に関してこれまでどのような理論や主張がなされてきたかを学び、自分自身の立場・主張について深めることが目的です。</p>
到達目標	<p>1. 授業で扱う現代社会の諸テーマ(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道徳の関係、非利己性、寄付の義務等)について『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、晃洋書房)の議論を参考に、専門的な論点を理解する。</p> <p>2. 上記の諸問題に関して自分なりの考えをまとめる。</p> <p>(※授業ではプリントを配布しますので、『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』の購入は必須ではありません)</p>

授業方法と留意点	<p><b>【授業形式】</b> 毎回プリントを配布し、それに基づく講義を中心とする。しかし、特定のテーマについてピア・ディスカッション(机の隣の人との議論)をしてもらうことがある。また、授業内容に関する小問題を授業中に解いてもらうことがある。</p> <p><b>【講義時間内のスケジュール(予定)】</b> 前回のコメントシートへの返答(10-20分) コメントシート配布(小問題を配布する場合もある)、今回の講義のポイント解説(10分-20分) 講義(50分程度) コメントシート提出(5分)</p>
----------	---

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	道徳とはどういうことか	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳は定義できるのか</li> <li>道徳の最小概念</li> <li>回復の見込みのない乳児をどのように扱うべきか</li> </ul>	事前：特になし 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
2	文化的相対主義	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる文化はいかにして道徳規範を持つのか</li> <li>文化的相対主義を本気で受け止めるようになるか</li> <li>文化的相対主義から何を学ぶことができるか</li> </ul>	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
3	倫理における主観主義	<ul style="list-style-type: none"> <li>倫理学に証明はあるのか</li> <li>同性愛の問題</li> </ul>	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
4	道徳は宗教に基づくか	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳と宗教の関係</li> <li>道徳は神の命令か</li> <li>キリスト教と中絶の問題</li> </ul>	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
5	心理学的利己主義	<ul style="list-style-type: none"> <li>非利己性は可能か</li> <li>「どんなことも結局自分のためではない」という主張は本当か</li> </ul>	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
6	倫理的利己主義	<ul style="list-style-type: none"> <li>飢餓救済に寄付する義務はあるのか</li> <li>「何が人のためになるかは難しい」「自分のためになることだけをやるべきである」という主張は本当か</li> </ul>	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
7	功利主義者のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>安楽死の問題</li> <li>動物の権利の問題</li> </ul>	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
8	功利主義をめぐる議論	<ul style="list-style-type: none"> <li>幸福の問題</li> <li>結果がすべてか</li> </ul>	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
9	絶対的道徳規則はあるのか	<ul style="list-style-type: none"> <li>普遍的な道徳は可能か</li> </ul>	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
10	カントと人格の尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人間の尊厳」という考え</li> <li>刑罰の理論における応報と功利性</li> </ul>	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
11	社会契約の思想	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホプズの主張</li> <li>囚人のジレンマ</li> <li>市民的不服従についての問題</li> </ul>	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
12	フェミニズムと気づかひの倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>女と男は倫理についての考えが違うか</li> </ul>	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習	

				(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	13	徳の倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>徳の倫理と正しい行動の倫理</li> <li>様々な徳</li> </ul>	事前：前回配布した参考文献を読んてくる 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	14	満足のいく道徳説とはいかなるものか	<ul style="list-style-type: none"> <li>思い上がりのない道徳</li> <li>道徳共同体</li> <li>正義と公正</li> </ul>	事前：前回配布した参考文献を読んてくる 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義のまとめ</li> </ul>	事前：前回配布した参考文献を読んてくる 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで	ジェームズ・レイチェルズ	晃洋書房
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	期末試験：60% 授業中の課題：40%			
学生への メッセージ	答えがないと言われて久しい現代社会を生きる上で、簡単に消費されず、長い間参考になるであろう知見を得ることができたと思ってもらえれば幸いです。			
担当者の 研究室等	非常勤講師控室			
備考	参考書等は授業時に適宜紹介します。質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。 非常勤講師室等における相談可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。  連絡先： 貫井隆 nukui.takashi.54n★kyoto-u.jp ★は@に変えてください  評価基準の40%である「授業中の課題」について： 「授業内容に関する小問題」を授業中に出题しますので、それによって評価します。 「授業内容に関する小問題」を実施する日時は授業中に連絡します			

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊, 担当者未定
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1420a2		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまいがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけではなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、多くの見方を総合して正しいと思われる行動をとらなければなりません。つまり私たちは、科学を単一の基準にして生活することはできないのです。そして、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出くわることになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において歴史上どのような問題と考え方が登場したのか、ということを見ていきます。
到達目標	1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ
授業方法と留意点	「教材・課題提供型授業」の形式で実施する。毎回授業終わりにコメントを提出してもらい (方法は初回授業で指示する)、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果 (資格)	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入		講義の進め方や評価基準等の確認
2	哲学の始まり		イオニアの自然哲学	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
3	古代ギリシアにおける知の体系 (1)		プラトンにおける知の分類	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
4	古代ギリシアにおける知の体系 (2)		アリストテレスの目的論的自然観	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
5	古代ギリシアにおける知の体系 (3)		アリストテレス以降の学問区分	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
6	数値化・機械化された自然 (1)		ペイコンの帰納法とガリレイの科学	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
7	数値化・機械化された自然 (2)		デカルトにおける精神と物体	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
8	数値化・機械化された自然 (3)		ロックの所有権	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
9	世界と精神 (1)		スピノザにおける神と人間	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
10	世界と精神 (2)		ライプニッツのモノイド	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
11	世界と精神 (3)		カントにおける合目的性	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
12	歴史の展開と知 (1)		ルソーの自然状態	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
13	歴史の展開と知 (2)		ヘーゲルの弁証法	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
14	歴史の展開と知 (3)		フッサールの生活世界	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
15	まとめ		講義全体を振り返る	予習・復習: 講義ノートを見直す (計2時間)

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学マップ	貫成人	筑摩書房
2	科学的精神の形成	ガストン・バシュラール	平凡社	
3				

授業形態

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	試験 80%、授業内課題（コメント）20%の割合で評価する。
学生への メッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性（生きている間にできること）が広がります。
担当者の 研究室等	
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室または非常勤講師控室にて対応します。

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1421a2		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野で、系統地理学（人文地理学・自然地理学）とともに地理学の根幹を成す。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。
授業方法と留意点	講義内容を収録した音声付パワーポイントをオンデマンド配信する。音声付パワーポイントは、Moodle にアップロードする。
科目学習の効果（資格）	中学社会・高校地理歴史教員免許

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方	講義ノートを復習しておくこと（事後学習 3 時間）
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林とサバンナ	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）	
3	熱帯気候と住民生活 (2)	熱帯雨林の近年の変化	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）	
4	熱帯気候と住民生活 (3)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）	
5	熱帯気候と住民生活 (4)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）	
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	砂漠と季節河川	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）	
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	砂漠ゾウと地域住民	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）	
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）	
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	氷河地形と人々の暮らし	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）	
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）	
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の住民生活	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）	
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）	
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを復習しておくこと（事後学習 1.5 時間）	
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）	
15	試験（授業内で実施）	試験	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 3 時間）	

実務経験	
関連科目	人文地理学、自然地理学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門	水野一晴	筑摩書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Moodle
Teams コード	5ia8hq3
Moodle コース名 および登録キー	2020 地誌学（金1・渡邊） RKYEwfq5sMosCiMMR3y
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 （基準）	試験 70%、授業内課題 30% 試験および授業内課題は、いずれも Moodle で実施する。
学生への メッセージ	高校で地理（A・B）を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回ノートを取りながら集中して受講してください。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）。質問等は学内メールにて対応する。
備考	

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	麻生 将
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1422a2		

授業概要・目的	現代世界・社会の諸問題に地理学がどのように向き合っているかを考えるにあたり、具体的な事例を通して主要な人文地理学の研究成果とアプローチを紹介する。			
到達目標	＜地理学的なものの見方・考え方＞について理解し、それをふまえ、身近な問題を捉え直すことができる。			
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習してほしい。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス:地理学を学ぶ意義、地理学から見える世界・現象	授業の進め方、授業全体の参考書の紹介など	中学校 (高校での地理選択者は高校地理) までの「地理」の学習内容を振り返る (事後学習) (2 時間)
	2	地図の読解	様々な地図の読解と理解について	紹介した参考文献を読む (事後学習) テーマに沿った地図 (身近な地域の地図またはメンタルマップ) 作成の課題に取り組む (事後学習) (2 時間)
	3	都市の空間現象	都市の歴史、現代の都市で生じる様々な現象と課題について	紹介した参考文献を読む (事後学習) (2 時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する (事後学習) (1 時間)。
	4	農村の現状と課題	農業地理学の基礎と農村の成り立ちと現状、課題について	紹介した参考文献を読む (事後学習) (2 時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する (事後学習) (1 時間)。
	5	経済地理学①工業	工業立地の歴史と現状、将来の変化について	紹介した参考文献を読む (事後学習) (2 時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する (事後学習) (1 時間)。
	6	経済地理学②農業	日本と世界の農業の現状と課題について	紹介した参考文献を読む (事後学習) (2 時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する (事後学習) (1 時間)。
	7	経済地理学③商業・流通	事業所の立地と流通システム、および経済のグローバル化について	紹介した参考文献を読む (事後学習) (2 時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する (事後学習) (1 時間)。
	8	環境問題と地理学	様々なスケールから見た環境問題について	紹介した参考文献を読む (事後学習) (2 時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する (事後学習) (1 時間)。
	9	災害と地理学	災害と人間活動との関わりについて	紹介した参考文献を読む (事後学習) (2 時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する (事後学習) (1 時間)。
	10	社会問題と地理学	日本と世界の主な社会問題の空間現象について	紹介した参考文献を読む (事後学習) (2 時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する (事後学習) (1 時間)。
	11	ジェンダーの地理学	ジェンダーをめぐる空間現象について	紹介した参考文献を読む (事後学習) (2 時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する (事後学習) (1 時間)。
	12	空間と政治	都市における空間の管理と政治的背景について	紹介した参考文献を読む (事後学習) (2 時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する (事後学習) (1 時間)。
	13	文化の広がり	文化と社会の関わりについて	紹介した参考文献を読む (事後学習) (2 時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する (事後学習) (1 時間)。
	14	生活世界の認識	メンタルマップ、時間地理学について	紹介した参考文献を読む (事後学習) (2 時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する (事後学習) (1 時間)。
	15	まとめ	授業の総括と定期試験について	紹介した参考文献を読む (事後学習) (2 時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する (事後学習) (1 時間)。
実務経験				
関連科目	「自然地理学」「地誌学」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
	2	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」			
Teams コード	3mnk02e			

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	dankebitte0605@gmail.com
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	期末レポート70%、平常点30% (平常課題を何度か課す。)
学生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義中の私語、飲食、携帯操作は禁止する。講義の進行を著しく妨害するような態度をとった場合、退室を命ずることがある。</li> <li>2. 授業では毎回の冒頭で配布するレジュメを用いる。講義形式を基本とするが、簡単なディスカッションを時々行う。高等学校で地理を履修していなかったとしても、初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、問題はない。</li> <li>3. 中学や高校の地理の授業で用いた地図帳を常時持参することが望ましい。</li> <li>4. 講義中に何らかの作業を行うことがあるので、マーカーまたは色鉛筆を数色準備しておくこと。</li> </ol>
担当者の 研究室等	
備考	授業外の質問等については、出校日に対応する。



科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星 優也
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1423a2		

授業概要・目的	この授業では、おもに古代から中世の文学作品について、とくに代表的なものに触れる。『古事記』、『竹取物語』、『今昔物語集』、『源氏物語』、『平家物語』、『太平記』など、一度は聞いたことがある作品についての基本的な知識を学び、原文に触れることで日本の代表的な古典文学について知る。
到達目標	古文への苦手意識をなくし、物語の面白さに触れる。 作品に触れ、その特徴について説明できる。 古典文学の流れを理解する。
授業方法と留意点	基本的に一つの作品について前編・後編の2回に分けて講義するため、必ず参加すること。 プリントを配布するため、適切に管理すること。
科目学習の効果(資格)	日本を代表する古典文学に関する知識と理解が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンスー文学を学ぶとはー	授業の内容説明と進め方について。	(事後) 授業で取り上げる作品について、辞書で調べる。
	2	『古事記』と『日本書紀』①	「日本神話」で知られる『古事記』と『日本書紀』に触れる。	配布したプリントを読み理解する。
	3	『古事記』と『日本書紀』②	『古事記』と『日本書紀』の違いを学ぶ。	配布したプリントを読み理解する。
	4	『風土記』と神話・昔話①	風土記の中で代表的な神話に触れる。	配布したプリントを読み理解する。
	5	『風土記』と神話・昔話②	風土記の世界その2。特に「浦島太郎」の話を取り上げる。	配布したプリントを読み理解する。
	6	『竹取物語』の世界	「かぐや姫」の物語を原文から触れる。	配布したプリントを読み理解する。
	7	『源氏物語』を知る①ー光源氏の物語ー	『源氏物語』の物語に触れる。	配布したプリントを読み理解する。
	8	『源氏物語』を知る②ー宇治十帖の世界ー	『源氏物語』後半の物語に触れる。	配布したプリントを読み理解する。
	9	説話集の世界①ー『日本霊異記』ー	『日本霊異記』の代表的な説話に触れる。	配布したプリントを読み理解する。
	10	説話集の世界②ー『今昔物語集』ー	『今昔物語集』の代表的な説話に触れる。	配布したプリントを読み理解する。
	11	軍記物語と「武士」たち	軍記物語で代表的な初期作品を紹介する。	配布したプリントを読み理解する。
	12	『平家物語』の世界①	『平家物語』の紹介と背景について学ぶ。	配布したプリントを読み理解する。
	13	『平家物語』の世界②	『平家物語』の世界を深く読む。	配布したプリントを読み理解する。
	14	『太平記』の世界①	『太平記』の基本情報と内容について学ぶ。	配布したプリントを読み理解する。
	15	『太平記』の世界②	『太平記』の背景を学び、古代から中世の文学史についてまとめる。	配布したプリントを読み理解する。またこれまでのプリントをまとめる。

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	gpymyda
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業時のコメント・考察(60%)、学期末課題(40%)
学生へのメッセージ	古文が苦手になる経験をしたことがあるかもしれませんが、物語とその歴史的背景を踏まえて読むことで、古典世界の面白さを知ることが出来ます。この機会に、現代とは異なる古典の世界へタイムスリップしてみましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田 清
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01426a2		

**授業概要・目的**  
 阪神・淡路大震災（1995）以来、ボランティア活動は、従来の社会福祉の枠を超えて広がり、東日本大震災（2011）以後、その広がり、社会的承認を得ています。しかし、そもそもボランティア活動とは、何なのでしょう。それは、企業の営利活動に対する「ただ働き」でもないし、自己犠牲を伴う「滅私奉公」でもありません。またそれは、自治体また国家「行政の肩代わり」でもありません。災害の現場において、あるいは社会福祉の現場において、ボランティア活動は、どのような社会的・個人的意味をもつのでしょうか。ボランティア活動に関してその多様な意味を問うことは、この社会の中で自分自身の存在を問うことであり、それを通して逆に自分が住んでいるこの社会のあり方を問うことです。この授業では、ボランティア活動の多様な意味に関して、歴史、政治、経済などの枠組みの中で明らかにし、ボランティア活動の基本的知識を身につけることを目標としています。

**到達目標**  
 この授業を履修することによって、受講生は次の点を説明できるようになります。  
 (1) ボランティア活動に関して、広い視野から一般的に説明できる。  
 (2) ボランティア活動と自分自身とのかかわりに関して説明できる。  
 (3) ボランティア活動と自分が生きる社会とのかかわりに関して説明できる。

**授業方法と留意点**  
 WebFolder を使用して、様々な資料を通してボランティア活動の理解を進めます。資料（大学の紀要論文など）に関して、全体的に五回レポートを提出してもらいます。必ず資料を熟読し、課題に臨んでください。

**科目学習の効果（資格）**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績の評価方法に関して確認すると共に、授業の全体的なテーマ及び個別的なテーマに関して概略を述べます。	シラバスを熟読して、授業に臨んで下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
2	ボランティア活動概論（1）	従来のボランティア活動の定義を紹介し、その問題点を指摘します。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
3	ボランティア活動概論（2）	従来のボランティア活動の定義を紹介し、その問題点を指摘します。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
4	ボランティア活動の歴史（日本）	日本の歴史においてボランティア活動と類似した活動を紹介しします。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
5	ボランティア活動の歴史（世界）	世界の歴史においてボランティア活動と類似した活動を紹介しします。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
6	ボランティア活動と NPO(1)	阪神・淡路大震災におけるボランティアの働きを具体的に紹介しつつ、行政・企業に対する NPO 誕生の必然性を説明します。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
7	ボランティア活動と NPO(2)	東日本大震災におけるボランティアの働きを具体的に紹介しつつ、行政・企業に対する NPO の独自の活動を紹介しします。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
8	ボランティア活動と心理学	ボランティア活動を行う個人的動機、あるいは集団的圧力、また「何故、人を助けるのか」、こうした問題を説明しつつ、議論します。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
9	ボランティア活動と社会学（1）	ボランティア活動を行う「私」とは、何者なのか。近代という歴史観から「私」の実態を説明します。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
10	ボランティア活動と経済学	A. スミスの自由放任主義以後の J.M. ケインズの福祉国家論、及びその後の自由主義思想を紹介しします。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
11	ボランティア活動と人類学	M. モース及び C1. レヴィ＝ストロースの贈与論を前提にして、ボランティア活動を無償の贈り物とみなす立場を紹介しします。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
12	ボランティア活動と社会学（2）	ボランティア活動を行う「私」は、何を言い得るのか。被災者、高齢者、障害者、彼らの人権を尊重しつつ、「私」は、どのような「連帯」を形成できるのか、これについて議論します。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
13	ボランティア活動と法律	ボランティア活動は、どのような法的基盤を通して行われているのか、またどのような法的基盤によってその活動を規制されているのか、これを問題とします。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
14	ボランティア活動と農業問題	農業ボランティアの可能性とは何か。繁忙期の農家の手伝いから里山の整備、環境問題まで。その可能性について議論しします。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
15	まとめ	この授業で学習したことを総括的に振り返ります。	事前・事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。

**実務経験**  
**関連科目**

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	提出されたレポート(20点)×5で評価します。			
学生への メッセージ	ボランティア活動とは何かと問うと、考えれば考えるほど、正体が掴めなくなります。ですから、ボランティア活動論という研究が成立するわけで、一緒にボランティアについて考えてみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	事前事後の総学習時間の目安は、60時間です。 質問等は出講時に、授業の後また非常勤講師室にて対応します。			

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	南 慎二郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01427a2		

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 経済学は特に近代以降の科学や産業の発展と共に進歩してきた学問であり、私たちの社会の豊かさや直面する課題解決(貧困、社会保障、環境問題など)を求めていく上で、経済学の考え方やそれに基づく政策は密接に関わっています。本講義では経済学の歴史に即して基礎的な考えを学習した上で、現実の具体的な動向や問題のトピックを通じて理解を深めていきます。</p> <p><b>【講義の目標】</b> 一般教養としての経済学の知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて社会経済や時事問題を理解して自らで考えられるようになることが目標です。</p>
---------	--

到達目標	一般教養としての経済学の知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて社会経済や時事問題を理解して自らで考えることができる。
------	---

授業方法と留意点	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。
----------	---------------------------

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに:講義の全体や進行について 経済学の一般的な考え方、経済学史の流れ	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
2	経済循環をめぐる歴史①:主に古典派経済学とマルクス	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
3	経済循環をめぐる歴史②:シュンペーター	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
4	価値や価格はどのようにして決まるか:価値説と限界効用説、リカードから新古典派へ	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
5	ケインズ革命:ケインズの研究・思想とその影響について	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
6	現代経済学の概観:戦後の経済学の流れ、現代の経済学派の関係	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
7	制度学派:現実社会の制度(慣習や経験・心理に影響される人間行動を含む)を重視する経済学の系譜	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
8	行動経済学:認知心理学をベースとした新たな経済学の展開	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
9	戦後の日本経済史:私たちが生活している社会経済の背景として	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
10	労働について:雇用と賃金の決まり方、日本の労働市場、格差や雇用形態や労働災害の問題	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
11	公害・環境問題について①:利潤追求と節約、外部性と社会的費用、環境問題に対する経済学的アプローチ	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
12	公害・環境問題について②:日本の公害・環境問題の歴史と教訓、具体的な環境問題で考えてみる	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
13	地域と経済:経済学の視点による地域の捉え方や地域発展・地域経済振興のあり方について考えてみる	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
14	経済学と政府の役割:社会保障制度と福祉国家の盛衰、市場の失敗と政府の失敗	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
15	まとめとして:これまでの講義の振り返り、社会を見る手がかりとしての経済思想	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 経済学の歴史	根井雅弘	筑摩書房(ちくま新書)
	2	日本経済論	宮川努、細野薫、細谷圭、川上淳之	中央経済社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、講義期間中に実施する小レポート 40%。 (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、定期試験はレポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)			
学生への メッセージ	経済学というと競争社会での合理性や効率性を追求するといった冷たいイメージも伴いますが、現実の社会を取り扱うものですから、道徳倫理や公正を重視して、万人の幸福や厚生を求める思想も根幹に持ちます。農学であれば貧困問題に直結する食糧供給や食生活・文化の豊かさとの関係がある仕事ですので、経済学の知識やその思想を学んでおくことは有意義といえます。経済学や数学の予備知識を前提とはせずに授業進行を行います。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	授業時間内に口頭もしくは紙により質問を受け付けるようにし、次回講義時にフィードバックします。 授業時間外の質問についてはメール等に対応します(初回時にアナウンス)。			

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01428a2		

**授業概要・目的**  
人間が集団で生活している限り、法や条例、環境、貿易協定の影響を避けて生きることはできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、人間の私的な領域まで積極的に介入してくる福祉国家のなかで環境や国内外の市場に関わろうとする農学部の皆さんには、より深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的にしています。政治学の中でも、もっとも基本的な事柄である日本政治史、政治体制論、政治過程論、国際政治にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。

**到達目標**  
この授業を通じて学生は、日本の政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。

**授業方法と留意点**  
オンライン授業で行います。

**科目学習の効果(資格)**  
公務員試験や就職活動において、日本の政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション～政治とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習: 政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
2	政治と権力～政治とは何か? 正当な権力とは何か?	身近な日常生活で現れる政治と、マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。	事前学習: 教科書の該当箇所(第五章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
3	国家と政治システム～システムとは何か?	政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。	事前学習: 教科書の該当箇所(第六章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
4	デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か?	さまざまな政治システムがあるなかで、戦後の日本政治の基礎になっているデモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。	事前学習: 教科書の該当箇所(第十八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
5	戦前の日本の政治体制～天皇制と日本が戦争へと向かった理由	戦後の日本政治とはまったく異なる戦前の政治体制について授業します。また軍部を戦前の政府が抑えられなかった理由を映像資料を見て考えます。	事前学習: 教科書の該当箇所(第十八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
6	マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究	世論と政治文化について授業します。	事前学習: 教科書の該当箇所(第二十一章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
7	マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か?	マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。	事前学習: 教科書の該当箇所(第二十一章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
8	選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ	日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。	事前学習: 教科書の該当箇所(第二十二章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
9	国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革	行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。	事前学習: 教科書の該当箇所(第十一章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
10	国際政治の二つの観点①～アイディアリズム	国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。	事前学習: 教科書の該当箇所(第七章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
11	国際政治の二つの観点～リアリズム	東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。	事前学習: 教科書の該当箇所(第八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習: 授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
12	冷戦終結後の日本外交①～	冷戦終結後の新しい国際秩序を開くこ	事前学習: 教科書の該当箇所(第八章)を読み、マ	

		湾岸戦争とその結果	とになった湾岸戦争と日本政府の対応について授業します。	メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	13	冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争	米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	14	冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換	集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習:来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習:試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。
実務経験				
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学、社会学、国際政治など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社
	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	レポートで評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 和田講師室			
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01429a2		

授業概要・目的	本授業は、法が「日常生活」および「医療従事者」としてどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎回、予習・復習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認すること。
科目学習の効果(資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、医療従事者としての社会生活、そして日常生活に必ず役立ちます!

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	法ってなんだろう?	遠隔授業(教材・課題提供型授業)にて実施する。講義の目的、進め方、成績評価/私たちの生活と法	評価の時期・方法・基準の項も参照のこと
	2	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(1)	基本的人権、プライバシー、自己決定権、信教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	3	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(2)	表現の自由、生存権、法の下での平等	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	7	家族と法-結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、親権、監護権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	8	家族と法-親子関係	扶養、相続、遺言	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	9	日常生活のアクシデント-交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	10	日常生活のアクシデント-医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	11	日常生活のアクシデント-製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	12	罪と罰-犯罪(1)	脳死・臓器移植、インフォームドコンセント	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	13	罪と罰-犯罪(2)	インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	14	労働・社会保障と法	労働契約、解雇・失業、子育て、介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	15	総括	Moodle からテスト	

実務経験	
関連科目	日本国憲法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学概論-身近な暮らしと法	國友順市、畑雅弘(編著)	嵯峨野書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	1 限開講: de9f3wq 2 限開講: 2gj9h62
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	1. Moodle からテスト 50% 2. 課題を Moodle に提出する。50% COVID-19 の状況によりレポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります。
学生へのメッセージ	毎週金曜授業開始時間までに Moodle に講義資料および課題をアップしますので、翌週火曜 23:59 までに Moodle に課題を提出してください。 法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。 医療従事者として知らないではすまされない基礎知識があります。 本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
担当者の研究室等	Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp



備考	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 講義前の予習（教科書を読む。1時間×15回）</li><li>2. 復習（講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回）</li><li>3. 自己学習（講義に関連する新聞記事を読む）</li></ol>
----	---

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北 真収
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01430a2		

授業概要・目的	経営学の基本について全体を網羅して講義を行います。授業で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	経営とは何か、何が課題なのかなど、現実即して経営への疑問を広く理解することが目標です。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営知識を講義します。理解を助けるためにDVDなども活用します。 学習課題への返答を求めると参加を重視します。 授業形態はTeamsを使用。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する
2	企業と社会	企業の社会的責任を中心に講義します	事前：教科書の1章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
3	企業の種類	私的企業、公的企業について講義します	事前：教科書の2章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
4	企業理念と企業文化	企業理念や企業文化の形成について講義します	事前：教科書の3章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
5	企業統治	経営者を規律づけるしくみ (ガバナンス) を学びます	事前：教科書の4章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
6	企業倫理	不祥事を未然に防ぐことについて考えます	事前：教科書の5章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
7	企業戦略、競争戦略	企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します	事前：教科書の6章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
8	企業財務	資金の調達、運用について説明します	事前：教科書の7章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
9	合併・買収 (M&A)	合併・買収の意義や効果を考えます	事前：教科書の8章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
10	イノベーション	新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します	事前：教科書の9章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
11	マーケティング	製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます	事前：教科書の10章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
12	組織の構造	企業が活動できるしくみを学びます	事前：教科書の11章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
13	ものづくり	多品種少量生産を中心にものづくりの発展について学びます	事前：教科書の12章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
14	仕事と生活の調和	ワークライフバランスの必要性、多様な働き方について考えます	事前：教科書の13章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
15	国際経営	グローバルな経営組織や経営の現地化について講義します	事前：教科書の14章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)

実務経験	
関連科目	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	実践に学ぶ経営学	風間信隆・松田健編著	文真堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	1 限開講：5k0mskk 2 限開講：rhmw6f8
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	期末レポート50%、小テスト50%で評価します。
学生へのメッセージ	代表的な事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
担当者の研究室等	寝屋川11号館8階 北 真収研究室 (相談時は事前に連絡してください)
備考	

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金 志善
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01431a2		

授業概要・目的	本講義では、観光の概念について理解し、観光学の基礎的な専門知識を習得することを目的とします。観光は、今やグローバル産業と言われるまでに大きく成長しました。国内では、訪日外国人が3000万人に達成したことや、東京オリンピックによる経済波及効果が地域活性化にも繋がる観光への期待が膨らんでいます。そこで、この授業では、観光の歴史、文化そして経済的側面からその潜在力を捉え、多様な観光産業との関わりやその果たす役割を包括的に理解することを期待します。
到達目標	①観光の歴史的發展を概観しながら、観光産業の機能と役割について理解できる。 ②観光を捉えるための基本的な考え方、社会情勢などの基礎的な知識を身につけることができる。 ③国内観光、海外旅行、外国人の訪日旅行等の現状を理解し、その要点を説明できるようになる。
授業方法と留意点	・講義中心 ・課題 (調査、レポートなど)  毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
科目学習の効果 (資格)	観光地で起きている問題を自らの課題として考え、自ら関わろうとする態度を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	観光の概念	授業の進め方の説明の後、観光の基礎的な概念について学習します。	これまで思い出に残る旅の経験を列挙する。事前学習1時間、事後学習1時間。
2	観光の歴史	人はなぜ旅行に行くのだろうかについて学び、旅のかたちの変遷を学習します。第1回レポートを課します。	産業革命以降、人々を運送する手段が発展し、今日に至っている。当時どのような交通手段があったかを調べておくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。	
3	宿泊業 (1)	日本のホテルの発達史を学び、現在の宿泊業の特徴と役割を理解します。	日本のホテルの今後の方向性について考えをまとめる。事前学習1時間、事後学習1時間。	
4	宿泊業 (2)	ホテルチェーンの現状と宿泊業務の基礎について学習します。	興味を持っている外資系ホテルチェーンに関して、ネットなどでその歴史と現状について調べてくる。事前学習1時間、事後学習1時間。	
5	旅行業	旅行業の仕組みと旅行業の商品について学習します。旅行商品の成り立ち、流通、販売の機能を学び、商品を販売する立場で企画してみます。第2回レポートを課します。	旅行業の役割や機能をまとめておくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。	
6	地域における SDGs とは	SDGs とは何かについて学び、企業がSDGs に取り組むべき課題などについて学びます。	なぜ SDGs は注目されるのかについて調べておく。事前学習1時間、事後学習1時間。	
7	運輸業	航空会社・空港・鉄道について学習します。航空会社の歴史と企業が現在置かれている状況をサービス、格安航空会社の台頭などから理解して行きます。第3回レポートを課します。	格安航空会社 (LCC) について調べる。事前学習1時間、事後学習2時間。	
8	メディカルツーリズム	アジアにおけるメディカルツーリズムの現状と各国の事例について学習します。	日本においてメディカルツーリズムが難しい理由について調べる。事前学習1時間、事後学習1時間。	
9	オーバーツーリズム	オーバーツーリズムとは何か、また、それが地域住民・観光客に及ぼす影響と今後求められる対応策について学習します。第4回レポートを課します。	観光公害の問題点について調べておく。事前学習1時間、事後学習2時間。	
10	統合型リゾート (IR)	統合型リゾート (IR) とは何か。日本のIRの現状と世界のIRについて学習します。	統合型リゾート (IR) の課題、その対策などについて調べる。事前学習1時間、事後学習1時間。	
11	観光マーケティング	マーケティングとは何か、観光にマーケティングがなぜ必要なのかについて学習します。第5回レポートを課します。	事前に配布する資料を事前に読んでおくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。	
12	観光業の環境分析	観光業の環境分析、SWOT分析について学習します。	SWOT分析について復習しておく。事前学習1時間、事後学習1時間。	
13	ダークツーリズム	ダークツーリズム概念の登場と拡散について事例を挙げて紹介します。	ダークツーリズムの役割について調べておく。事前学習1時間、事後学習2時間。	
14	コンテンツツーリズム	コンテンツツーリズムによる地域振興について学習します。	アニメツーリズムについて調べておく。事前学習1時間、事後学習1時間。	
15	これまでのまとめ	テストを実施します (1~13回)。 観光の発生過程から現在の発展へのプロセスを学習します。観光のもたらす影響にはどのようなプラスとマイナス面があったか復習します。	これまでに学んだ内容を復習しておく。事後学習2時間。	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代観光総論	前田勇	学文社
	2	入門観光学	竹内正人	ミネルヴァ書房
	3	新・観光学入門	中村忠司・王 静	晃洋書房
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	38ursel			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メールを利用			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	テスト 50%、5回の課題レポート 50%  本授業では、専門に関わる確かな知識・技能を身につけるために、レポートにより課題を出す。レポートは、授業中に提示した課題について、5回提出する。			
学生への メッセージ	楽しく観光を学びましょう。			
担当者の 研究室等				
備考	非常勤講師室（相談可能時間：月曜日 12時30分～13時10分） stellakim0217@gmail.com			

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	友枝 恭子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる(統計学などの)応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	課題レポート
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	課題レポート
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	課題レポート

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	課題演習で30% レポート70%の合計によって判断する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分です授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	友枝：寝屋川学舎3号館3階(数学研究室) tomoeda@mpg.setsunan.ac.jp
----------	---

備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。
----	--

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	清水 達郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる(統計学などの)応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	課題レポート
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	課題レポート
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	課題レポート

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	課題演習で30% レポート70%の合計によって判断する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分です授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	友枝 : 寝屋川学舎3号館3階(数学研究室) tomoeda@mpg.setsunan.ac.jp 清水 : (質問等は講義の前後、またはメールでの連絡が望ましいです)shimizu@kurims.kyoto-u.ac.jp
----------	---

備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。
----	--

科目名	生命倫理	科目名 (英文)	Bioethics
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩崎 綾乃
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ONA1434a2		

授業概要・目的	農学の学びにおいて「総合科学」の基礎となる幅広い知識の獲得に加え、倫理観をもった豊かな人間性を涵養する教育が必要であり、農学分野における生命科学の倫理的配慮が社会的、科学的、技術的側面などから求められている。中でも、農学分野において、ゲノム解析、各種細胞の研究利用、遺伝子組み換えによる品種改良など生命に係る技術利用が行われ、人類に有益な結果をもたらす一方で、予期せぬ有害な影響なども予測される。したがって、本授業では、生命科学分野で配慮されるべき生命倫理観及びその行動を学ぶ。「ヒトの生死や生命とは何か」、「人間とは何か」など根源的な問いに向き合いながら、農学における生命科学の最新技術をヒトや地球環境に及ぼす影響を考察しながら、倫理的行動について学修することを目的としている。
到達目標	① 現在の生命倫理に関する諸問題についての視点や基準および課題を理解する。 ② 遺伝子操作やゲノム編集などの先端技術の実際を学修し、その活用法に関する倫理規範などについて身につける。 ③ 生命の誕生および死について学修し、それらの倫理観を身につける。
授業方法と留意点	各回、テーマに関する基本的事項の講義の後、テーマに関する問題について考える（発表する回もある）。事前・事後学習課題については、シラバスに記載している。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	生命倫理で考える項目の概説 チームビルディングを行う  視点1 あなたにとって「いのち」とは 視点2 ヒトも生きものの一員である  講義、ワークシート、発表	事前：シラバスの確認  事後：事後レポート
2	●ヒトの生命1 生殖補助医療技術 人体の資源化、商品化  SGDs-3, 5, 16	生殖補助医療技術、出自を知る権利について考える 人体の卵子、精子の資源化、商品化について考える  視点1 テキスト 5章 生殖補助医療技術 視点2 テキスト 12章 人体の資源化、商品化  講義、ワークシート、発表	事前：テキストの予習(5, 12章)、 事前レポート  事後：テキストの復習(5, 12章)、 事後レポート
3	●ヒトの生命2 出生前診断、着床前診断 優生思想と病者への差別と排除  SGDs-3, 5, 16	出生前診断、着床前診断について考える 優生思想と病者への差別と排除について考える  視点1 テキスト 6章 出生前診断、 着床前診断 視点2 テキスト 7章 優生思想 視点3 テキスト 27章 病者への差別と排除  講義、ワークシート、発表	事前：テキストの予習(6, 7, 27章)、 事前レポート  事後：テキストの復習(6, 7, 27章)、 事後レポート
4	●ヒトの生命3 医療資源の配分 脳死と臓器移植 人体の資源化、商品化  SGDs-3, 10, 16	医療資源の配分と国民医療費について考える 臓器移植と移植ツーリズム および人体の臓器の資源化、商品化について考える  視点1 テキスト 9章 医療資源の配分 視点2 テキスト 10章 国際的生命倫理 視点3 テキスト 11章 脳死と臓器移植 視点4 テキスト 12章 人体の資源化、商品化  講義、ワークシート、発表	事前：テキストの予習(9, 10, 11, 12章)、 事前レポート  事後：テキストの復習(9, 10, 11, 12章)、 事後レポート
5	●ヒトの生命4 インフォームド・コンセント  SGDs-3	患者の権利とインフォームド・コンセントについて考える  視点1 テキスト 16章 インフォームド・コンセント  講義、ワークシート、発表	事前：テキストの予習(16章)、 事前レポート  事後：テキストの復習(16章)、 事後レポート
6	●ヒトの生命5 医学研究の歴史と研究倫理  SGDs-3	患者の権利と医学研究の歴史、研究倫理について考える  視点1 テキスト 18章 医療倫理の四原則  講義、ワークシート、発表	事前：テキストの予習(18章)、 事前レポート  事後：テキストの復習(18章)、 事後レポート
7	●ヒトの生命6	安楽死と尊厳死について考える	事前：テキストの予習(14, 15章)、

		安楽死・尊厳死 SGDs-3	視点1 テキスト14章 安楽死・尊厳死 視点2 テキスト15章 終末期医療 講義、ワークシート、発表	事前レポート 事後：テキストの復習(14,15章)、事後レポート																
	8	●ヒトの生命7 終末期医療 SGDs-3	終末期医療と quality of life (QOL) について考える 視点1 テキスト15章 終末期医療 講義、ワークシート、発表	事前：テキストの予習(15章)、事前レポート 事後：テキストの復習(15章)、事後レポート																
	9	●ヒト以外の生命1 コンパニオンアニマルとペット産業	動物の生命と愛護について考える。 視点1 人の暮らしとコンパニオンアニマル 視点2 コンパニオンアニマルとペット産業	事前：テキストの予習(21章) 事後：テキストと配布資料の復習(21章)、事後レポート																
	10	●ヒト以外の生命2 産業動物と野生動物	産業動物と野生動物の生命を考える。 視点1 産業動物と食肉産業 視点2 野生動物の生と死	事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習、事後レポート																
	11	●生命の連鎖と文明	文明と自然観、生命の連鎖について考える。 視点1 文明と自然観・生命観の多様性 視点2 生態系と生命の連鎖	事前：テキストの予習(23,24,30章) 事後：テキストと配布資料の復習、事後レポート																
	12	●農業・環境・食1 遺伝子組換え農業	遺伝子組換え農業の現状を整理し、今後について考える。 視点1 遺伝子組み換え農業が生み出す利点 視点2 安全性をどう考えるか	事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習、事後レポート																
	13	●農業・環境・食2 環境倫理	人間活動が地球環境に与える負荷(Human impact)について考える。 視点1 地球全体の利益と個人 視点2 将来世代との関係(世代間の公正)	事前：配布資料の予習 事後：テキストと配布資料の復習、事後レポート																
	14	●農業・環境・食3 フードファディズム	食と健康の関係を考える。 視点1 効能の評価 視点2 食品産業の役割	事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習、事後レポート																
	15	まとめ	第1回から14回までの復習。 講義、ワークシート、発表、自らの考えをレポートにまとめる。	事前：これまでの学修の復習 事後：レポート作成と提出																
実務経験																				
関連科目	バイオテクノロジー、生物学、倫理学、哲学から学ぶ、心理学、産業動物学、食と農の倫理を学ぶ など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>テーマで読み解く生命倫理</td> <td>小泉博明ら編著</td> <td>教育出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	テーマで読み解く生命倫理	小泉博明ら編著	教育出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	テーマで読み解く生命倫理	小泉博明ら編著	教育出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
授業形態	対面授業																			
Teams コード	nkk40om																			
Moodle コース名 および登録キー	生命倫理(応用生物科学科)2020年度1年 Teams コードと同じです。																			
連絡手段	Teams 内の質問専用チャネル																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																			
評価方法 (基準)	授業内のワークシートの成果物、各回のレポートやMoodle等での課題の提出とその内容:50点、最終レポート:50点。100点満点の60点以上で合格。なお、取り組み状況(受講態度、レポート、課題の提出など)が不良である場合、最大10点を減点する場合があります。																			
学生への メッセージ	●心構え 本科目の目標は「ヒトの生死や生命とは何か」、「人間とは何か」など根源的な問いに向き合いながら「倫理観を身につける」ことである。この目標は、学生自身が「ものの見方」「考え方」「感じること」について意識して講義に臨まなければ「達成できた」と感じられるものではない。講義は、生命倫理に関する社会的問題について、考えるきっかけやテーマを与え、考え、発言し、他者の意見を聴き、あらためて考え、振り返るといった流れで行う。このため、受け身で聴く形式ではないことを認識し、自分の頭で考え、さらに多様な意見を聴き、																			
担当者の 研究室等	薬学部1号館4階 岩崎講師室																			
備考																				



科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Design I
学部	農学部	学科	応用生物科学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OCA1438a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</li> </ol> <p>よくなることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？</li> <li>・公と私について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)</li> </ul>
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)</li> </ul>
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> <li>・アセスメントを実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること</li> <li>・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること</li> <li>・講義で課された課題に取り組むこと (2 時間)</li> </ul>
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)</li> </ul>
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する</li> <li>・社会人としてのマナーを学ぶ</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで課題に取り組むこと (2 時間)</li> </ul>
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)</li> </ul>
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDP から見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)</li> </ul>
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)</li> </ul>
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを 100 挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)</li> </ul>
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学 4 年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)</li> </ul>
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCA サイクルを身に付ける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)</li> </ul>
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)</li> </ul>
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること (1.5 時間)</li> </ul>
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること (2 時間)</li> </ul>
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのプランニング</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (1 時間)</li> </ul>

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン II、キャリアデザイン III、インターンシップ I、インターンシップ II、エンプロイメントデザイン I、エンプロイメントデザイン II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各回の課題レポート (55%)、最終レポート (45%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター (石井)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジユメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。			